發行所 東京麹町區牛ヶ淵公園 愛國婦人發行所△振替貯金口座番號東京壹萬壹千八百壹番●電話番町一五二〇、一七四五番▽發賣所 東京京橋區南鍋町 盛文館△振替貯金口座八五三番●電話新橋二五八六、四四三二番

愛國婦人

每月五日二十日發行
一部金三錢 壹ヶ月金六錢 半年分參拾六錢 全國無遞送料
廣告料一行六十錢
本號全部禁轉載
東京麹町區(牛ヶ淵公園) 發行所 愛國婦人發行所
印刷兼發行人 山澤俊夫
編輯人 永持德一

△本號要目▽

懸賞梅か櫻か……(繪附錄)
貯　蓄……(社　説)
現今の婦人……廣岡淺子
當代百畫選(諏訪湖)……平福百穗
近代の文豪……島村抱月
米國の模範婦人……フイールド
Hot Biscuit……櫻井ちか子
一直線(家庭百話)……無名氏
素人醫者……三原醫學士
東京の女學校……相馬棠陽
話の種……ひつじ
新歸朝者の婦人觀……末摘花
雜　菊……あきら
ヘレングウール嬢……(寫眞版)
記事△和歌△新體詩△俳句△短文△讀者欄△社告等

懸賞 梅か櫻か

數號以前から御約束致して置きました懸賞「梅か櫻か」は、愈々當號で發表致します。「梅か櫻か」とは又た名稱、實は「男か女か」とすべきでありますのを、何れが梅やら櫻やらともぢりまして、斯くは標題を附けたのです。

當號の畫附錄に御覧下さいまし。花もはぢらふ可愛い子供十人の寫眞が1より10までの番號つきて載つて居ります。此の可愛い十人の子供の內何の子が男で、孰れが女かを當てゝ下さい。當てた方には悉く

愛國婦人發行所編纂 五月中旬發賣 **女德論叢** と云ふ面白い冊子一部宛さし上げます。

締切は來る**四月**の末日限 **用紙**は普通の葉書てよろしいのです。

△四月以後の定價▽

前號誌上に豫告せる如く、來る四月以後本誌に大革新を加ふると共に定價を左の如く改む、右謹告す。

一部金三錢五厘 半年分四十二錢 一年分(二十四部)金八十四錢

△愛國講座　△泰西女禮式
右四月以後の本誌に新光彩を放つべし

閨秀百佳選 應募用紙

住所	姓名

愛國婦人

△注意▽一枚一首を限り認むべし(一首以上沒書とす)

「閨秀百佳選」募集に關する詳細のことは本誌前々號にあり、就て見られよ

懸賞「梅か櫻か」は本誌當號に發表しあり

社説

貯蓄(借金の二)

百年泣いても借金は返へせず。返へすには返へすの法があり。そは他にあらず分限を知ることなりとは、前號に說る所にして、これが出來れば、借金が出來ず。借金なければ、次は如何に。

楠公の壁書といふに、溜めるよりは借るなとあるその極意は、借りが濟んだら溜めよといふことなり。依てこれよりその溜める方に就て述べんとす。

掃溜めと灰吹とは、溜めまいと思へど、溜るものなれども、富は中々溜る者にあらず。寢た間に五寸の雪は積れど、貯蓄は寢て居ては出來ぬものなり。天道は寢て居る者に禍を與へず、稼ぐに近付く貧乏なし。溜めるは、稼ぐの外に、手はなきものなり、朝起きてより寢るまで、無駄に時間を立てず、手を休めず、用事は小口から片付け、用事なくならば、新しく考へ出して、喰つて掛るべし、つれ〳〵と暇あるまゝにといへは、上品らしく聞ゆれども、つれ〳〵と暇ある人間ばかりならば、國は立ち行かず、國民はやがて干物なり。人間は暇なきがよし。今の日本人は働き方が足らず、あの倍は働きても身體に差支なきものなり。取り分け、今の婦人は、內て出來る物を、いくらも他所に誂へて、無用に金を捨て居るものなり。女の指十本て軍艦を作る法とて勸められたる足袋からが、內て作つて然るべきものにて、家族の足袋を買はずと濟めば、積る中には大分の經濟なり。裁縫の如き、他所に頼まず內てすれば、その經濟はまた大きなものなり。足袋の作り方を知らずとならば、學ぶがよく、裁縫が下手ならば、練習すべし。習ふ位の時間は、仕樣によりては、十分出來るものなり。又地面の空きには、一寸種を播き時々水など遣れば、汁の實、菜の助け位にはなるべく、少しく面倒を見てやれば雞も飼はれて、卵も買はずと濟むべし。魚まで釣つて來いとはいはず。その他それに準じて、少しく氣を出し注意すれば內て出來て、買はずと濟む物多く、一家の暮しに、如何ほどの始末が出來るか知れざるなり。

以上は作り出す方なるが、また有る物を無駄に使はぬ心掛肝要なり。薪の焚き方炭の使ひ方は、あるものにて、上手に燃やして、入るだけて消すと、下手に燃やして、火を遊すとは、倍かは入りが違ふものなり。煮焚の工面もあるものにて、工面よければ、何度も火を起さずとも濟むものなり。一日一本の薪三片の炭が始末できても、日本全國の家庭では大したものなるべし。

物は無駄に使ひ、無駄に棄つべからず。巴里といへば、世界一の奢り所と思はんも、それは遊びに來る外人のすることにて、巴里の家婦は、よく考へて、始末したものなり。マツチ一ツが四錢するにも因らんが、摩りかすの軸木は、決して棄てず、皆溜めおきて、附木代りとするなり。家の內ての廢物は、使はゞ、如何樣にも使ひ方あるべし。古新聞古はがきが漉きかへして白紙となり、雜誌の帶封は集めてはたきとなる。茶がらは、枕に入れて心地よく、蚊いぶし、石油の臭みを取るによろし。米の洗ひ汁は洗濯に利き魚の腸汁は上等の肥しなり。むしつた鳥の毛は座布團に入れ、ためた藁屑は壁のつなぎとなる。密柑、橙の皮は香料となり、梅、松の種、蟬の殼は藥品となる。西瓜の皮は、漬け物として甘く、鼠の皮は、耳袋として妙なり。青物芋の分はしは、豚の餌となり、貝殼は丸藥入れ、又燒きては石灰となる。硝子の破片は元の硝子に還り、襤褸屑變じて西洋紙となる髮の毛は、針刺に入れて針銹びず、糸屑機に織りて美事なり。その他擧ぐれば、如何程にてもあるべし。廢物決して廢物にあらず。よく考へて利用すれば、一家の費用を減じ、延ひて一國の經濟を助くること少々にあらざるべし。

もしそれ國民が酒と煙草を止むるの決心と勇氣あらば、廢物利用の比にあらず、これに越したる富家富國の法はなけれど今は唯言ふて慰むの外なきこそ、情けなけれ。女子は酒と煙草を飮まずして濟み居るに、何故男子ばかりは飮まずに居られざるか。これに就ては大に論ずべきことあれども、今は言はず。

世にはよく掘り出し物なり、見切り物なりなど唱へて、入らぬ物を買ひおく人あり。これは得に似て、實は大損なり、たゞて貰はぬ以上は、無駄な費えといふものなれば、入る時になりて買ふべく、入らぬ買ひ置きはすべからず。婦人の衣服は、大方はこの入らぬ買ひ置きなれば、爾今無用たるべし。

最後に貯蓄に最も大事にして、有効なるは、人々その家業に勵むことなり。婦人は能く夫の職業を理解し、夫の仕事に同情し、出來るだけの手助けをなすべく、又養蠶、紡織、耕耘、手藝等本業としては固より、餘業としても、出來れば行ひて、少しにても生產を努むべし。一家一國の經濟は、婦人の決心一ツにて、寢せ起し出來る者と心得て、婦人は一生懸命に働くべく、決して徒手遊食すべからず。斯くの如くにしてなほ家富まず、國富まずんば、これ世界の大不思議にして、人間を止めるの外なし。二十餘億の國債は心配するに足らず、心配なるは、一般國民に如上の覺悟あるや否やにあり。

おのれやれ富貴になさておくべきか、貧乏神の命を背かば。

△露西亞婦人氣質

昇曙夢氏談

右次號「世界の婦人」欄內に掲ぐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

現今の婦人

愛國婦人會幹事 女子大學評議員　廣岡淺子

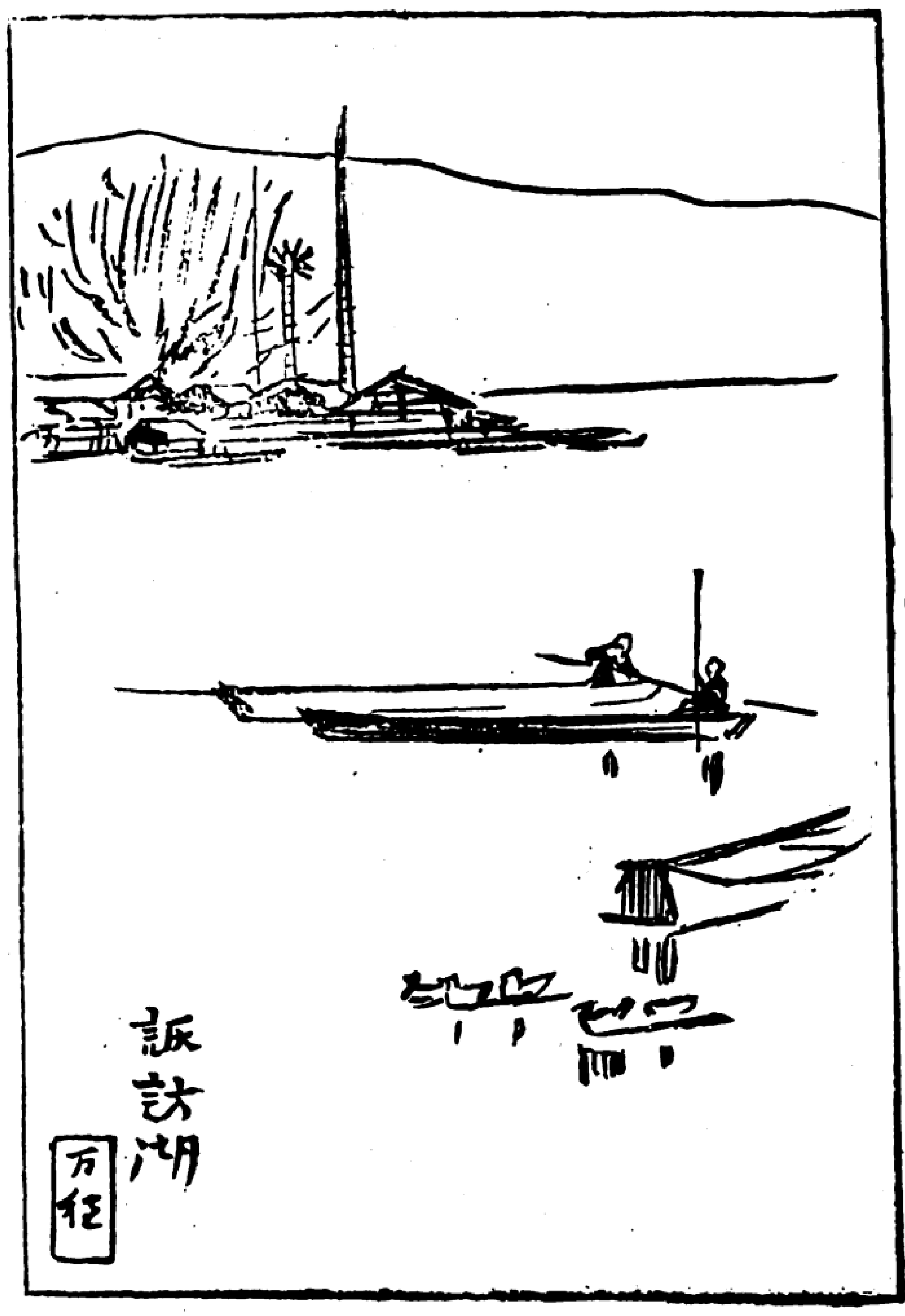
現今に於いては物質的の文明は非常な進歩をなして居り、長足の發達をなして居りますのに、精神的の進歩といふものは實に逡巡として之に伴ふて行くことが出來ませぬ。而して此進歩、文明に伴つて起る弊害と害毒とは實に多様てあり、多岐であります。而もこの罪惡、害毒を流す者は抑も何でありましやうか―自然がこの世に及ぼす力は偉大なものであり、強力なものであります。併し此根源は實に人―人類其ものが、依つて湧き起させたものではありませぬか。私は之を流したのも吾人であり、之を一掃するも又吾人であると考へます。而してこの事たるや、實に容易ことてはありませぬ。一朝一夕、一代一世のことてはありませぬ。實に成効を萬年の末に求め、高潔な理想確固たる主義を以て、極力努力せねばならぬと思ひます。―殊に婦人我國の婦人は、餘程の決心―利己主義、依頼心と云ふやうな、消極的態度を改めて行かねば自分が救濟者の一人であると云ふ固き〳〵信念を以て、世に處して行かねばなりませぬ。全體日本の婦人は餘り他に依頼すると云ふことが大て、自分が主であつて、人に對して、他を救ふと云ふやうな、愛他心と云ふものが少ない。殆ど一般の女には缺けて居ります。―から云ふことて、什様して一家一社會大きくは一國人類の爲めに、盡くすとか、貢獻するとか云ふことが出來ますか。只だ最初に自己の弊を破らねば、非常な勇氣と努力とを以て自分の缺點を矯正さなければならぬことゝ思ひます。

而して社會に出ましても實に其困難苦痛は一通りなものてはありませぬ。初め希望に華ぎ、理想に憧憬れて居つたのが、實際此烈しい世と苦戰の結果、奮鬪の結果、失敗に失敗を重ね失意を重ねるに至つたならば、若しも己の理想、主義が眞の輝を持つたものでなかつたならば、數度の失敗は―遂に絶望となるのであります―最早向上の萌芽を有たない失望といふものに墮るのであります。私はこの失望、絶望と云ふことが、實に罪惡の根源であると云ふことを考へました。總ての罪惡、墮落といふものは皆この根底より枯れた失望、絶望から來て居ると考へます。實にこの失望、絶望に陷つた人は、何の價値がありましやうか。何の光輝ある、望ある分子を社會に與へることが出來ますか。只だ之等の人の社會に與へるものは、墮落、放逸とか云ふ罪惡の黴菌を殘すのみだらうと考へます。―失敗は成効の基礎て、人が此世に出て或る目的、理想に到達するまでの失敗失策は當然なことて、寧ろ一ッの失敗なしに成効すると云ふことは望ましくないことて、又在り得べきことゝは思ひませぬ。―要は、絶對の失望に墮ちぬこと、絶望に陷らぬことて―九轉十起―九度の失敗て十度の成効があれば―九十九度失敗して百度目に成効があれば―最後の唯だ一回の勝利があれば、實に其人の價値は偉大なものてあらうと考へます。此世に對し社會に對して其の人は成効をなした人と云ふことが出來るだらうと思ふのであります。

終りにもう一言申て置きますが、本邦の婦人は男子といふものを知る機會が少ない爲めに、其男子の共通性其の缺點とか弱點とか云ふものを知ることが出來ない。其爲に判斷を誤り處置を誤つて往々危險に陷入り又墮落することが多いのであります。男子は之と反對に女子に接する機會が多く、實に所在る方面の女子を知り、其女性の弱點、急所を見るに實に敏なるものてありまして、又女子の感情を左右することも、女子よりは巧であらうと考へます。てすから社會に立つ御婦人は、よく〳〵此點に御注意を願ひます。

當代百畫選(四)

信州諏訪湖は古來の名勝にして近來汽車の便開けてより又氷滑りの快戯を以て鳴せらる。上諏訪及下諏訪の氷滑場等は結氷期に於て頗る奇觀を呈しつゝあり。



◎諏訪湖　平福百穗氏筆

近代の文藝

―成美文藝會にて―

早稻田大學教授　島村抱月

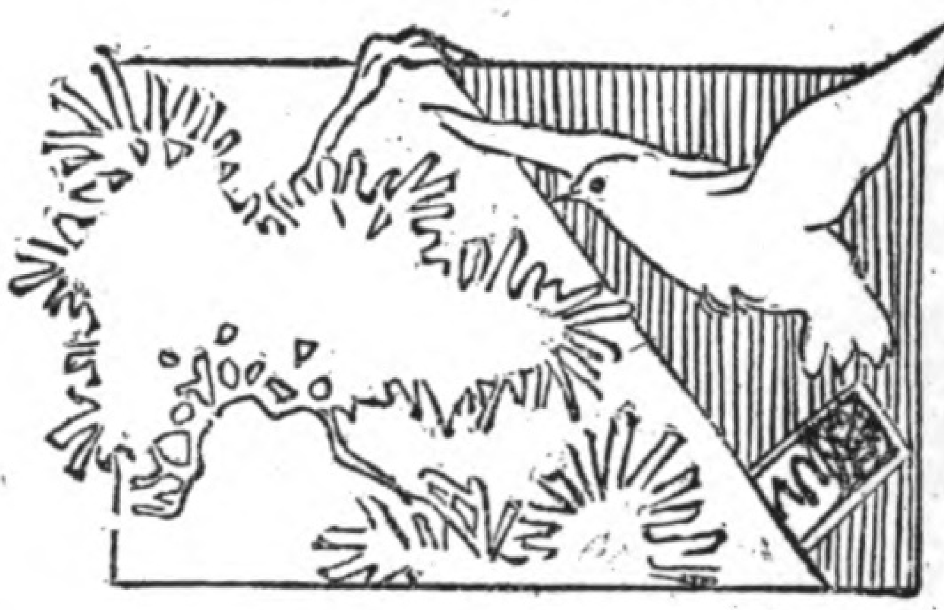
上

近頃は大分、自然主義と云ふものが盛大になりまして、夫れと共に世評もなか〳〵喧しくなり、新聞なぞを見ましても種々な災難の起つて居る所を見ると、餘程、この自然主義と云ふものが、社會に害毒を流す分子を持つて居りますやうて遂には、非常な壓迫、迫害を享けるやうになるてあらうと思ふ。世間から試驗される年てある、又壓迫される時代てあります、てありますから吾人〳〵は明瞭に文學藝術に對して、餘程その立場を明瞭にして置きませぬと、間違ふた感情から飛んでもない害を受けるだらうと思ひます。近來興つた一種の文學に就ては悲觀せられて居る人も在るだらうと思ひますが、何にしろ何地にしても、十分の覺悟を持つて、居られんことを希望いたします次第てあります。

新藝術、本邦て一番に新しき文學に關聯した、一ッ二ッを御話して見やうと思ひます。御承知の通り、日本に小説あつて以來、明治になつて以來既に廿餘年と云ふ年月を經過居る、其の間文苑は殊に運動が自由てありますから、法律なり、又宗教なぞよりも、餘程早く進んで來て居る、實に目醒しき程急速の進歩を爲して來て居る。例へば文學の中て尤も主要な、地位を占めて居る、小説に致しましても、二三年經つと、もう需要が變つて來る。讀者の要求が變化して來ると云ふ様な狀態て、少しても油斷をして居ることが出來ない形勢てあります、實に一時の流行てある、衣服の流行の如きとは又違つて居るが實に其流行が激しい變遷をなして居る。日本の文學は實に、急天直下の勢を以て進み、從て放念して居ると、直ぐ舊思想とか又停滯して居るとか云はれる有樣て、餘程文學を味ふ人にとりましては注意を拂ふべきことであると思ひます。

さて文學を味ふ人、即ち讀者に就て、その種類を分けて見ますると、澤山な階級に分かつことが、出來ると思ひます。第一階段の人は、新聞なぞに掲載されて居る、講談筆記のやうなものを讀む人、少々進んで來ると、講談筆記のやうなものてもありませぬが、もう少し筋の面白い、所謂西洋あたりの探偵小説である、又夫れを主人公とした、狹い意味て云ふ一種の家庭小説と云ふやうなものを讀む人、それからもう一歩進んて行きますと今度は、筋計りてなく、まー例へば紅葉の作物が面白い、多情多恨が面白いと、云ふやうな定度に來て居る讀者、(無論之は一番多數てある)更に進歩して來ると、少しく一方に偏しまするが、最近の所謂自然主義の小説てある、これは紅葉などの小説と比較て見ると一寸面白味が不明ないのてありますが、之を讀む人と、都合四ッは少なく共ありますが、其他種々〳〵の種類に分類することも出來ますが、大抵この四階段の讀者に分類されます。詰り講談筆記のやうなもの、家庭小説、浪六のやうなもの、それから、紅葉物と更に一番嶄新しい處の自然主義の小説に興味を以て居る讀者とてある。之等は全く時代的に漸次變遷して來たもので、以て如何にその變遷の劇烈しいかと云ふことを、窺ふことが出來るだらうと思ひます。苟も文學を味ふ人は此の四階級のものを味はねばならぬ、さうして、何はどこが善いとか、成程この小説は爰に興味があるとか云ふやうに熟讀して、さうして熟れが一番善いのてあるかと云ふことを比較研究して、公平なる判斷を下して貰ひ度いと思ふのてある、今比較的舊い趣味の文學と新しい文學との相違點を、一ッ二ッ言つて見やう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



米國の模範婦人

フラー　フィールド

ルス　フラー　フィールド(Ruth Fuller Field)氏は、前號に其の幼年時代のことを紹介したヘレン　ミラー　グウール孃の書記をして居た人であります。前號にも述べて置いた通り、ヘレン孃は極めて勤勉の婦人でありました。その上、頗る交際廣く、關係が多いのでありますで、ありますから、日々に受取る手紙の數も仲々に多い。その中で多數は、勿論返事を出す必要の無いのが多い。が、併し、返事を出さればならぬ分のみでも書記の一人や二人で書き盡されぬ程あります。此のフラー　フィールド氏もヘレン孃の書記をして、始終その左右に附き添ふて居りました故に、細大漏す處なく、充分ヘレン孃を觀察することが出來たこと丶思はれます。扨て其處て、此のフィールド氏はヘレン孃に就いて何のやうに申しましたでしやうか。

◎私がホドソン河畔なるヘレン孃の結構此の上も無い白石館に着きました時、至つて質素な態風をして居る伙食司は斯う云ひました。ヘレン孃は赤楊樹の中で貴殿のお出てになるのを待てお出てです

◎ヘレン　グウール孃の名が洽く社會に知れ渡つたのは、既てに數年以前のことてありました。その上彼の西班牙戰爭て非常に慈善の働きをしたので、頗ぶる有名になつたので有りました。て有りますから、私が友の勸めに依り自身孃の書記たらんことを申込む爲めに、唯今此のヘレン孃の邸宅へ參つたので御座いましたが、此の孃との初對面に就いて、私は少からず思念を勞して居つたのてありました。然るに此ヘレン孃が、今赤楊樹の下て私を待て居ると云はれたので、私の胸には、一種の感慨が起りました。

◎扨て導かる丶が儘、ホドソン河を傳ふて參りますと、赤楊樹の林がある。その唯或る一偶の處に、ヘレン孃は腰掛けて居られました。幾册となき書籍、紙片幾片かゞ其處に散亂してあるのを見て、私はヘレン孃が、心慰さの爲め此處に來て居らる丶のだと云ふことが解りました。

◎孃の應對振りは如何にも丁寧懇切を極めたことてありました。が、同時に、孃が如何に事務的な婦人てあるかゞ直ぐに解りました。孃が問はる丶ことは、總てその點に關してとありました。實に孃の事務的なとは驚くべき程てありまして僅々三分の裡に、總ての御相談が成立ちました。俸給は云云。一日何時間執務すべきかと云ふこと。斯くて私は孃との會見を果し、別を告げたのてあります。

◎かくて、孃との初めての會見を果し、歸つて來ますと、私の友人は切りに尋ねました。君が孃に初めて會見した時の感想は如何……孃の衣服は？　孃の頭髮は？　その他、云く何、云く何と。

◎しかるに、私の回答は、友の問に對しては最も不完全なものてありました。私は斯う答へました。私が孃に初めて面會した時、私の頭腦に明諒とした印象を與へ、斯く云ふ今日までも、最も明諒に私の頭腦に殘つて居る點は唯つた一つあります。それは孃の眼てあります。如何にも情けの深さうに見えると同時に、人の心をも突きさすかとばかり、いかにも鋭く見ゆる其の眼てありますと。

◎私が事務を見る折の參考にもとて、ヘレン孃は、その極く最初に經驗した慈善事業の經驗に就いて斯う云ふ談話をされました。無論これは、私に眞に慈善をする價値の有る場合と價値の無い場合との區別を示さんが爲めてありました。

◎その談話は斯う云ふのて。唯或る朝のことてありました。ニウ　ヨークなるイースト　サイドなる一婦人から、一通の懇願書を受取りました。この婦人は非常の厄に遭遇した婦人てあつて、極めて氣の毒な境遇に在るのてす。母となる時機は間も無く到來する筈てあつて、而も夫は職業が無くなつたのてありました。妻たる此の婦人は、頓て生るべき赤子の爲めに準備をすべき金すら無いのてあります。此の婦人がヘレン孃に哀求して來たのは金ては無く、古布子てありましたヘレン孃は、その書記に命じて、相當の手當をさせ、それを宛名の處へ送らせることにさせました。

◎然るに、その日、その書記の仕事が頗ぶる多忙であつたが爲めに、自身に其の命令を果すことを好う爲なんだので有りました。すると、その婦人は重ねて使者をよこし、一日の遲延が其の身に取つて非常の困厄を來す旨を云つて來ました。

◎ところが、孃の命令に依つて屆けた彼の布子が屆いたものと見え、翌日になると、極めて丁重に感謝の意を籠めた手紙が其の婦人から來、且つ同時に二人赤子の生れた由を云つて來たのてありました

◎そこて、孃は更に手厚い手當を送くり且つ其の後幾日か經つてから、自身、その婦人の家を見舞はれたのてありましたすると驚いたことには、家具と云ふものなぞ一切無い荒家の裡に、一個の卓子が据えられてある。その上には酒瓶が幾個か……孰れも空になつたのが載つて居り、その側には亂醉した二人……但し二人赤子とは云ふもの丶、老人が床の上に臥し倒れて居たのてありました。即ち、ヘレン孃より欺き取つた手當は此二老人の酒料となつたのて。

◎ヘレン孃は實に到らぬ限もなく慈善のことにのみ、之れ務めて居るのてありますが、孃は其の住居の附近、同じタリータウンに『小供倶樂部』を建て、また別に不具の子供の爲めにも立派な子供館を建てたのてあります。その他、孃に依つて建てられたもの、ニウ　ヨークには海員の爲めの水夫館もあります。

◎ヘレン孃の肖像は此處に揭げてあります。いかに其の身、富有の家に生れたとは云へ、眞の一箇人として、これ程までに慈善に心を寄せて居るとは、實に敬服の他は無いのてあります。

新歸朝者の見たる日本婦人

末摘花

上

何？　歐米婦人と日本婦人とを比較して話せと云ふんてすか。其は自分も久し振て歸朝したんだから所感も無いとは申ませんが、これと云つて纏つた考も浮びませんな。ては斯うしませう。これ迄餘り見掛けぬ樣だから、アルゼンチンの御話てもして、それて緖が付いたら本題に入ると云ふ事にね。

アルゼンチンの風俗

自分は久しい以前に日本を出發つて、南亞米利加のアルゼンチンに滯在して居りました其間屢々歐洲にも渡航して、諸方の風土にも接したから、日本人としては比較的歐米の事情に通じて居ると自信して居ります。

御承知の通り、アルゼンチンの首府はブオノザエレス(BuonosAyres)て御座いますが、極めて平民的の國て、共和政府の樞要機關は悉く一堂の中に集つて居るのてあります。即ち日本て云へば農商務省位な建物の中に、大統領も居れば陸軍大臣も居る、其他海軍大臣も文部大臣も內務大臣も外務大臣も、凡て集つて居るので御座います。ですから其處へ參ると直ぐに用が足りる。

小さい故に至て輕便

國が小さい故てもありませうが至つて輕便で御座います。萬事が凡て此の流儀て行はれて居ります。然し物價の高い事は御話に無らぬ位で、下婢でも五六十圓位は普通の給料として每月其丈づ丶取りますが、一寸聽くと大層割が好いやうてすけれど、物價が高いから同じことてす。それに就て高いと云ふ一例を擧げて見ると、自分が彼地へ參ると間も無く汚れ物が大層溜つたので洗濯屋に遣りました、三四圓位なものと高を括つて居ると、金四十何圓か取られて驚駭した事が御座いました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一直線

無名氏

『馬車の馬を御覽なさい。貴孃。まあ何と憫然なものてはありませんか。

斯う云つたところが、私が動物虐待防止會の會員だから、此樣なことを云ふのては無いのてす。そりや、勿論、虐待されると云ふ點から見ても憫然なことは云ふまてもありませんが、今日、私が貴孃に、此樣なことを申し上げる要點は、他にあるのてす。』

と、言葉を途切つて富士川登は、前なる茶碗を手にして、大分冷えたらしい澁茶を一口吸つた。

『馬車の馬を御覽なさい。その兩眼は覆物て覆はれて居るてはありませんか。思ふ存分、左右を見たくても、見ることさへ適はないてはありませんか。既に、その事、それ自身が憫然てあるのにも關はらず、他者の憫さは百年も堪えると云ふ、如何にも冷かな態度て、好き勝手に手綱をあやつり、好き勝手に鞭を加へるてはありませんか。馬若し心あらば、何うてしやう。

よしんば心なしとしても、幾分の不愉快を感ぜずには居りますまい。左樣てはありませんか、ねえ、貴孃。

そりや無論、馬は人を乘せるとか、重荷を挽くとか、馬車を挽くとか、先天的に約束のあるやうに、人間は思ふて居ります。が、しかし、これは、人間の側だけから、隨意に定めたことてあつて、馬それ自身に、萬一、物云ふ方便あらば、何のやうな不平を云ふか解らない、とまあ、私は思ひます。

が、併し、其處を今一歩讓つて、馬それ自身も、至極滿足して、人を乘せ、重荷を背負ひ、馬車を挽いて居ると假定めた處て、自由に天地萬物を見ることの出來るやうに、創造者に依つて、しかも、兩箇まて造られてある眼をば人間の得手勝手に覆物をするとは、何事てありましやう。馬、それ自身から云はせたならば實に心外千萬、理不盡至極と云ふだらうかと思ひますね。」

此時まて、一言をも混へずに、默つて富士川登の言に耳打ち傾けて居た、小栗栖賴子は、初めて口を開いた。

『貴君は、左樣仰有るけれど、馬車の馬が眼覆をされるのには、確然と夫だけの理由があるからては無いのてせうか。』

『有る。有る。それは無論有るてしやう。が、併し、場合に依つては、斯う眼覆など爲ずにも濟むかも知れんてせう。然るに……。然るにてす、沒義道にも爲せられずにも濟む、眼覆を無理々々に強ゐられて、心ない馭者の思ふがまゝ、鞭てはたかれ、手綱をひかれるのてす。それがいかにも憫然至極だと私は思ふのてすよ。

それも心得の充分ある、立派な、信用するに足るべき馭者ならば可恕てありますが……。

恐しいことには、世間には充分心得の無い馭者もある。此樣な心得の無いのても、心得のあるのと同樣に、依然、好勝手に眼覆を馬にして、その上、隨分、酷く鞭撻するてはありませんか。

幸ひにして、其樣な場合が屢々無いから好いやうなものゝ、此の馭者が不熟練の上に、萬一近視眼てゞもあつたら、何うてしやう。

眼覆の爲めに何にも見ることの出來ぬ馬は、不熟練な、近視眼の馭者に鞭たるるがまゝ、不思不識、河へ這入るか、塀へ打付かるか、電信柱に突き當るか解らんてはありませんか。

斯うなつては、ねえ、貴孃、最早、憫然などと云ふ範圍は通り越して、恐しいことゝは有りますまいか。

ふむ。ふむ。左樣てしやう。

無論てす。

が、併し、私が貴孃に此樣な談話をするのは、馬車馬を憫れむのみの意てはないのてす。

單獨、馬車馬のみならず、人間にも、此の馬車馬同樣……否、それ以上、憫れむべき事實が種々あるからてす。

早い話が、貴孃にしろ、私にしろ、此の憐むべき馬車馬以上、世にも憐むべき人間てあらうと思ひます。

何故？

貴孃は何故？とお尋になるのてす？

それては申しましやう。

貴孃は、屢々仰有つたと私は覺えて居ります。貴孃と私とは、兩人とも、その置かれてある境遇が好く似て居ると。

ふむ。ふむ。てしやう。左樣てしやうとも、ねえ。

果して、貴孃と私と同一境遇に置かれてあるとすると、共に、馬車馬的境遇に置かれてあつたのだと、私は云ふに躊躇をしないのてす。

何故？

何故、馬車馬的境遇に置かれてあると私は云ふのかと、貴孃はお尋ねてすね

申しますとも、申しますとも。

！

それを云はうが爲めの前提として、馬車馬難のお話を、私は貴孃にしたのてすものを！

抑も人間を造つたものは何人てしやう神、造物主！　神が人間を造つたとは千古の定理てはありませぬか。が、しかし人が果して、何人ても萬物の靈長たる完全の資格ありや、否や、頗ぶる覺束ないこと、私は思ひます。成る程、神の完全なるが如く作られてある筈の人間てはありますが、殘念なことには何うも左樣はいかぬのてす。その完全ならざる人間を父母として居る吾人の完全なもので無いことは勿論てあります。

此の完全ならざる父母は、自ら完全なものゝやうに思ふて居るてはありませんか。と、云つて、私は自分の兩親を怨むなぞと云ふ意志は全然ないのてす。が、自からを高く、完全なものと飽まて確信し、自分の致ることと爲すこと、飽まて完全てあると思ひ、その完全てあると信じた方法を以つて之れを飽まて、その子に及ぼさうとするに至つては、私は、聊かその是なる處を知らずと思ひます。

否、それも宜しい。が、しかし、吾が信ずる處は飽まて全完てあつて、吾が信ずる處以外に全完な道が無いと過信し、或ひは、父母以上完全な處のあるかも知れぬ可愛い子供の思想に眼覆をするに至つては、私は、それは過餘だと思ひますが、斯う思ふのは、私の方が無理てしやうか、ねえ、貴孃。

何有？　無理ては無いと仰有る。

てしやう？　左樣てしやうとも!!　處て、それは、それて好いとして、私は屢々兩親から斯う云ふことを聞かされて居りました。それは、斯うてす。

曲つた道を歩むな。飽まて家風を守れ

源清さ、我が家名を傷くるな。眞直に歩め、一直線に歩めと。

そりや、尤ものことてす。子たる吾人は飽まて兩親の踏だ同じ「正道」と云ふ軌道に添ふて歩まねばならぬのは、それあ云ふまても無いことてす。基督を信ずるものは、その御足の跡を踏て基督信徒らしく進んで行く。それと同樣、吾人は飽まて父母の進んだ「正道」を進んで行く。好い、それは宜しい。が、私に解らぬのは、……否、少し腑に落ちぬことは、一直線に歩めと云ふ問題てす。一直線！　一直線！！

成る程、二點間の最短距離は一直線てあります。が、吾人は、何の點と何の點とを二點の規準として宜しいのてしやうか。私は疑ひますね。

貴孃も……？

左樣てしやう、無論、貴孃もお疑ひてしやう！

が、一歩を讓つて、此の規準とすべき二點が頗ぶる明諒てあるとしても、殘る一箇の疑問は、人間が一直線と信じて進む、その一直線は果して眞實に一直線てあるか、何うかと云ふことてす。一直線だと信じて進む吾人、萬に一つ曲線に歩いて居るのてありますまいか。

成る程、二點間の最短距離は一直線てあると云ふことの證明だけは、幾何學に依つて確實に證明される。が併し、これは單に證明されると云ふのみに止るのてはありますまいか。一直線だと信じて人間の引く直線、果して厘毫の相違が無いてしやうか。私は何うも疑はざるを得んてすねえ。

幾何學に所謂直線すら、兎角の疑ひのあるのに、況してや、不完全なる人間の理想に畫く一直線、これが、何うも完全てある理由はあるまいと私は思ふ。

吁、不完全なる人の子として、馬車馬の如く、我が行く道の左右も解らぬ程眼覆をされ、疑ひつゝ、不完全の人間が隨意に定めた所謂一直線と云ふ「正道」を、たどり〳〵行かねばならぬ吾人！

貴孃にしろ、私にしろ、何とまあ、憫れむべきものては有りますまいか。』

と、富士川登は喟然として長大息した。果して同じ思念か、否か。小栗栖賴子も首俯垂れて、何うやら深き思ひに沈んで居るかのやうてあつた。窓より一直線にさし入る春の日、鮮やかに、一直線に男女の面を照して居る。

（をはり）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

話の種　ひつじ

本を讀むばかりが學問ではない。ありふれた世間話の中にも、往々聖賢の道にも劣らざる活教訓ある事を思ひ、年來見聞の面白き話、可笑しき話、有益な話、可愛らしい話など、順序もなく書きとめて置いたもの數十篇の多きに上つた。左に摘載する十數篇はほんの一部分に過ぎないのである。その内子供に關するものの二三は、嘗て自分の關係した雜誌の餘白に挿んだ事があつたやうに記憶する。

(一)　此鰌は男ですよ

母様此の鰌は男ですよ！と或る日芳ちやんは曠世の大發見を公けにした。

どうしてかい？、と、お母様の御不審も無理はない。

だつて母様、此の鰌にはお口のところにお髯があつてよ！

(二)　娘の機智强盜を捕ふ

東京は本鄕のさる商家の娘とのみで名は知らない。何でも餘程のシッカリ者であつたらしい。

父の某が某銀行から現金三千圓を引出して奧の金庫の中にキチンと封込んだ其の晩の事である。父は取引の要事で一晩泊の豫定で横濱へ出發した其の留守に、何處でどう聞き込んだものか同勢五人の强盜が、庭の雨戸を蹴破つてドヤ〳〵と入り込んだ。

スツといふ間もなかつたといふ、此の一組は泥棒社會でも名うての賊徒であつたゞけ、ゾロ〳〵と繰込んだと思ふ間に、番頭、丁稚、雇女の果までヒシ〳〵と縛しめられて、土藏の前に珠數繋ぎ！中にもやゝ氣の利きさうな由藏といふ小僧を案內として奧の一間へ押懸けた。いづれも拔身の大刀を提げて居た事は斷るまでもあるまい。

奧の間には娘が母親と一緒に、主人の留守を預かつて、金庫の前に枕を並べて寢て居たのだ。

唯ならぬ物音を聞いた時、娘は早くもそれと悟つたが、猥りに騷いては蛇蜂取らずだと、娘は取敢えず母親を呼び起し、寢惚顏の母親に手傳つて寢衣を平常着に着替へさせ、自分も今や帶をキチンと締め直した處へ襖をガラリと開け放ちて五人の盜賊は入り込んだ。

見ると兩人は帶まで締めて金庫の前に端坐して居る。尤も母親は此の時既に腰を拔かして居たさうな。と見て中にも獰猛さうな一人の荒くれ男が兩人の前にさばり出て、ヅブリと白刃を疊に突き立て、さておきまりの威嚇文句を並べたものだ。

文句は言はねえ、生命惜くは素直にな、三千兩の有金を、そつくり其の儘此處に出しねえ。と虎の樣な眼玉をギロリと光らせる。

娘はチラリと見やつた許りで、別にビクと仕た樣子もなく、確かに承知いたしました。折角の御出で――而も今日の入金まで突留めての御入來とあれば、素より隱し立てはいたしませぬ。

但しそこに一つのお願は、女ながら荷にも父の留守を預る私、封の儘數へもせず皆樣にお渡ししたては私父に對して申譯が御座いませぬ。て長くとは申しませぬほんの束の間。女の身嗜なみなれば一と通り髮容を直した上で、御同勢の前で數を改め、然る後に立派に御渡しいたしませう程に、まゝ暫時……と娘は一同を見かへりもせず次の間にスラリと起つた。

度膽を拔かれて流石の荒くれ男共も一言なく、いづれも豆鐵砲に驚いた鳩といふ呆面でボンヤリ次の間を眺めて居る。母親は素よりワナ〳〵、口の內で唱ふる念佛の聲もしどろに慄えて居る。

五分間許りで娘は出て來た。蛾眉細腰、ホンノリと晒さした雪の面には白いものさへ施して、殊に眼に立つたのは玉蟲色に光る口紅の鮮かさであつた。

御待遠樣で御座いました、と娘の口上はハツキリしたものである。へえ、どう致しまして、と泥棒の一人は思はず挨拶をしてハツト氣が注き、殊更に咳拂ひする一人を尻目にかけて、娘はガチヤンと金庫の扉をあけ、十圓紙幣の束三つまで惜氣もなくさらけ出して、人差指を唇にあて、ようく濕して、さて一枚二枚と數へはじめた。

娘の用意は人差指と唇にあるとはどういたしましてと挨拶するやうな間の拔けた泥棒共に感知される筈がない。娘はチロリ〳〵と泥棒の方を偸み見ては指を甞め、指を甞めては口紅を移し、三枚四枚と數へて居る。數へた紙幣には鮮かに一枚〳〵口紅が印してあるのだ。

約十分にして三百枚の紙幣は殘らず數へ上げられた。數に間違はありませぬ。さらばと差出す娘の手から引奪くるやうにして中懷にシッカリと捻込み、こんな所に永居は無用と、五人の泥棒はそこそこに裏口から逃げ出した。

娘は自ら起つて戸締りを直し、一同の繩を解いてやり、さて金庫の扉をもとの通りにキチンと締め、さて机に向つて認めた盜難屆の文面は、

今晩午前二時拔刀の强盜五名私方庭口の雨戸を破りて闖入し金三千圓を强奪して逃亡いたし候間此段御屆申上候但し右現金は悉皆十圓紙幣にて一枚々々に口紅を印し置き候以上

翌朝此の屆書が警官の手に渡ると間もなく、三千圓の內若干金は直に娘の手に戻り、殘金も數日ならずして悉く警察から下げ渡された。言ふまでもなく口紅が唯一の手係りで、旬日を出でずして五人の賊は一人殘らず其筋に召捕られたが、いづれも娘の膽力と機智には舌を卷いて驚嘆したといふ事である。

(三)　此馬には首がない

遠い昔のことである。

頗ぶる慌て者で有名な一人の侍、お屋敷の近所に出火ありと聞き、いきなり厩から乘用の栗毛を曳出して乘つたまではいゝが、あまりに狼狽へたもので前後を間違へ、後向に乘つたものだ。

とは氣がつかない件の侍は、いざ一鞭と構へて見ると馬の首がない！やあと言つたが二の句はつけず、いきなり鞍壺の上にたちはだかつて大音聲、やあ馬の首が失なつた！皆々出會へ出會へ！

東京の女學校

(二)　私立成女學校(下)

相良崇陽

思ふに少數の關者は常に强き共同的精神と、協愛的精神とを以て、何時の間にか社會に卓絶し得る程の能力と可能性とを發養するといふは自然の眞理法則であつて、氏等の熱誠が現れて漸やくに校風の確立を見るに至り遂て今日の發展を致てなしたるもの豈し偶然ではないのである。後、三十五年吉村氏去て金澤に往くや、其以前よりして校に講師たりし現校主學監たる宮田脩氏は代りて其後を繼ぎ、山根氏を校長に迎へ、水谷嘉悦兩理事の助力を得て該校の經營監督に當ることになつた、成女學校の今昔を偲び、其將來を思ふ人は決して前諸氏と同じく宮田氏を忘るゝことは出來ないのである。世人の能むるが如く宮田氏は倫理學者である、謹嚴にして實實なる倫理主義を抱く人である、温厚にして篤實なる君子であつて、同情心の深い躬行家である。而も合理的にして進取主義なる氏は決して眞理の前に權威の制網を怖れたり、世に媚びて自己の理想や抱負を枉げるやうな臆病な人ではない、氏は實に一方に於て有爲なる倫理學者たると同時に、女子教育家として比較的完全なる性格を有する人であると信ずる。斯る歷史を有し、かゝる事情を有する成女學校は勢ひ隆盛に赴かざるを得ない。見よ、新校舍は建てられて設備の一般を進め、幾多の講師は和親協力して子女の興育に勉め駸々として進運に向ひつゝあるにあらざるや。吾人は切に同校が養ひ來りし校風を益發展せしめて我女子教育界に偉大の貢獻を與へんことを祈るのである。

序でに左に同校の組織を概説して見やう

一、**本科**　は其目的、其教科は高等女學校に準ずるのであつて從て修業年限は五ケ年にして入學資格は高等小學校二年修業以上の者と定む

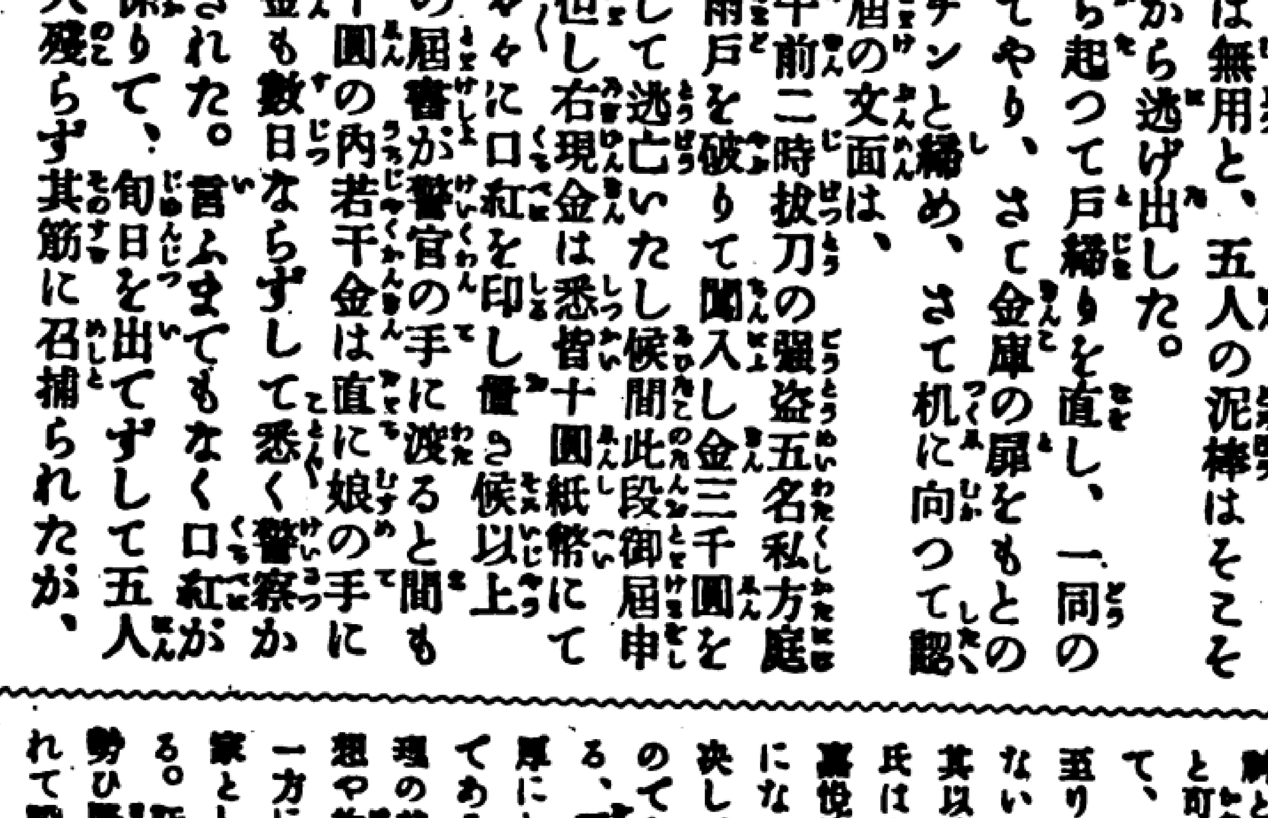
二、**技藝科**　は處世に必須なる實學技藝を授くる處であつて、修業年限を三年として、小學校全科卒業者を以て其入學資格とす

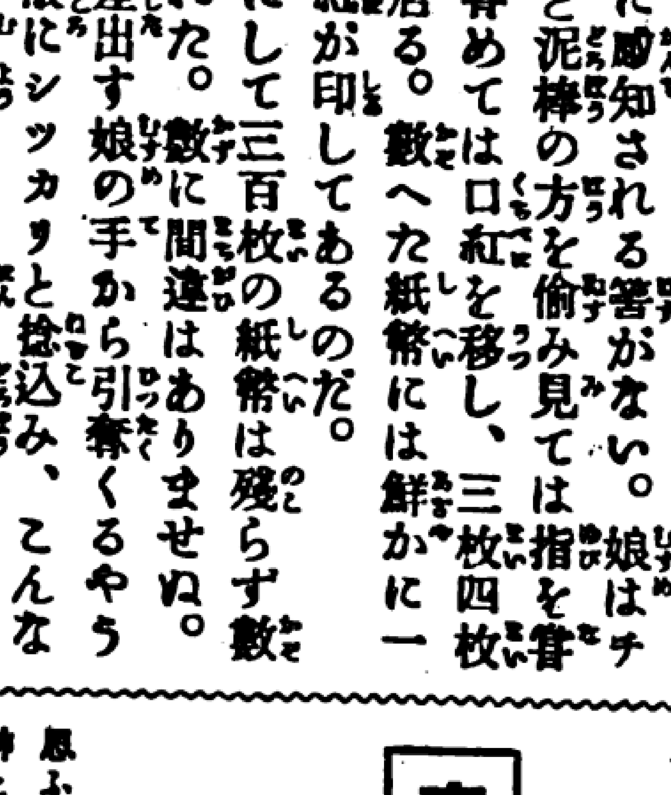
三、**專門學部**　は女子に高等教育を授くる處にして、家政、文學の二科に分れ、修業年限を三ケ年として入學資格を高等女學校以上とす

四、**補習科**　は修業年限一年にして高等女學校卒業生の補習に便す

五、其他　**專修部**　に、裁縫科、語學科、割烹科の三科あり、共に午後を以て敎授時間に充て修學者の便を謀る

寄宿舍の設備より其狀況等該校に關して評すべき材料あれども今は暫く筆を擱て、他日稿を起すことにせん。





Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

佐々木信綱大人選

—春季雜題—

天　埼玉　水野淑子

ちりひとつとゞめぬ床にうめの花一枝さしゝ君がむろかな

評。あるじの心も見ゆるやうにていと床し

地　廣島　藤野鋭子

野末には夕霞して里の子が牛曳きかへるすがたうすれぬ

評。繪まける家の門にこの畫の掛るを待つ様やあらむと思ひやらる

人　甲府　名取正代

春さめのなごりの露にうめの花つぼみのかずもそふこゝちして

秀逸

野邊にゆく風の少女の袖だすきのかずみにきゆる春のあぜ道　廣島　金原なを子

うちかすみあめしづかなる夕まくれ傘かたむけて花見るやたれ　大阪　打越和喜子

花のふく風やとひけん岩清水みすさつへにほふはるのあけほの　越後　歌川美知代

つみくさの郁をとめや流しけん小川のすみれ花たばにして　宮城　山形すみ子

立ちこめし霞の衣ほころびて鳴くうぐひすのこゑもるゝかな　東京　土師利根子

うかれゆく月のかげをもせきとめて夜たゝすまんやりみのもと　播磨　中村ます子

春くれば枯れし人目も萌えいでゝふくさのいほさへ鶯のなく　京都　古川よれ子

春の日ののどけき光りせにうけててまりつくなり愛らしき子の　京都　津田きみ子

家にます母にとつみしなとめ子のこゝろつくしそこにあふれける　信濃　高橋きよ子

あすこそはいでゝ摘むべく草の名を子らにをしふる春さめのまど　福島　鶴田よしの

耳無ゆ天の香山うねび山たなびきわたる春かすみかな　山口　宋田たけ子

流れゆく水もにごらぬ河そひの柾のしげみにうぐひすのなく　丹波　富田ます子

やさしげにほゝ笑みそめしくれなゐの梅の梢にあさひさすなり　丹　金田はるえ

若草のもゆる野路を分け行けば霞の奥に鶯のなく　青森　大橋星世子

甲

つとにとてつみし菫をなしみてやひれもす蝶のわれを追ひけり　青森　大橋のぶ子

窓にすかし泣き行く乳母が日衣に花ちりかゝる夕まぐれかな　青森　留田ふみ子

えにしたの葉ことにやとす玉ゆらにほゝ笑みかほのおほろ夜の月　香川　瀬高やす子

おもひれにみし夢なれやよしの山花にかはれる雲のむら消え　三重　中島ふみ子

園の花とこにかさしてこんといひし友まつ程の楽しくもあるか　京都　渡邊豐子

むかしみし花をわすれてたゝ一人いほのさくらをめでにけるかな　横濱　鈴木まつ子

里なれてのきはの竹に鶯のふし面白くうたふのどけさ　神奈川　足立原とく

としへても春のいろ香はあかさるにむかし忍はす若さくらかな　神奈川　足立原政子

少女子がひなまつりする祝ひの日園生に匂ふはつさくらかな　青森　河野みや子

やむ友をとひなくさめむよきつとに一枝手折る野邊の紅梅　遠江　萩原さだ子

霜とけて若草もえて花笑みて鶯なける山里の春　岡山　入木清子

うくひすの聲するかたをなつかしみおもはぬ里に梅を見る哉　廣島　金原直子

霜消てのどかに咲る梅の花こすえにきなく鶯の聲　東京　久保たみ子

里の子に教られてぞ來てみればむらのみやしろ梅さかりなり　大阪　佐野眞子

打かすみあみ引人の聲のして浦のとまやは春めきにけり　京都　古川よれ子

春雨の軒にけふる夕くれをさゝやきはしる燕かな　越後　阿部秀子

春ふけて田舍も富みて見ゆるかなこかれ白かれ鈴菜すしろ　三重　西山數子

そられかとふたゝひ耳をかたむけて聞くも嬉しき鶯のこゑ　山口　宋田貞節子

玉章をとく手にかをる花すみれふかき色香のなつかしき哉　京都　花輪よしの

新米の餞つみつるしつか家のはひりの柳いとのどけし　三河　石川留ゐ子

ほの〴〵と明ゆく空を行く雁のこゑさへかすむ春の山里　芝區　林喜久

吉野山今をさかりの花の上に霞みて出し春の夜の月　大分　桂木文子

春雨のはれしあしたは若くさのみどりもまして清けかりけり　豐橋　平松いと子

梅さきぬにほひおこせといひし君の嬉しのはるゝ春のおぼろ夜　丹後　旭のりえ

園のため盡しし君が勳こそ淺川原の花と匂へり　大分　桂木清閑女

さしのほる朝日の影にのどかなる聲のあや綾野の鶯　愛知　下郷きみ子

月かけはおもろのおくににほへともまた麗しろしこしの山々　京都　飯塚きよ子

春日さす日比谷のそのゝ花さかりうなゐをつれてひと日見ましや　京都　飯塚きよ子

空は瑠璃たかれはましろわか庭は緑の色に緋桃つゝみぬ　静岡　みち子

輪をなして軒に競ふる蚊の群や筑波生駒は夕かすみして　青森　木村てつ

かいひろふ春おもしろき堺浦うへこそをとめうちつどひけれ　堺市　金田久子

古郷へと文したゝむる手をとめて耳かたむけぬ歸るかりかれ　岡山　清水うめ子

夢の畑あを〳〵見えて山里のこゝにかしこにうぐひすのなく　静岡　彦坂清子

むつましくえまひこぼして少女らがひなまつりするさまののどけさ　三重　小島駒子

春雨にもえ出る草木見る毎にわか郷のめぐみ偲ばるゝかな　丹後　安久恭子

青の根の長き春日に縫たひもこゝろにかよふ花のおもかげ　京都　市川晴野

名におへる吉野のさくらみまほしとひさこをさけてゆく人もかな　兵庫　下舘ひさ子

燈明の光しらみて佛壇にかをりつめたき水仙の花　宮城　山形幸子

乙

嬉しさはかこや秋にあまりけり妹と摘みにし若菜なりせば　青森　大橋八佐子

軒に峰に鳴せぬ風ひうかふなりおぼろに匂ふ春の夜の月　甲府　風間千代子

さく花にもつるゝ蝶とわがすそをおひくる幼鶏といつれか愛き　岡山　横川晴子

もえいつる廣野が原の青草は蟲の命のくすりとぞなる　三重　庄司種子

静かなる雨をきゝつゝ敷島の道たどる夜ぞたのしかりける　三河　山田經子

うめさかば訪はむといひしことの葉を鶯よりもまちにしものを　埼玉　水野淑子

紀の國の瀬入町の岩つゝじ都の人に見せてほこらん　三重　西山數子

霞立つ野へも山へも色そへてみやこも春の錦なるらむ　本郷　久保たみ子

春雨の晴てのどけきかすみたつ野邊にやゆかん濱にやゆかん　三河　立岩きく子

春の日に學ひの道のひまを得て供にかたらひすみれ摘むなり　青森　大橋玉子

なかめてもあかぬなりけり遠近の霞に匂ふ千賀の浦わ　青森　大橋かれ子

和影寫眞

△木下尚江氏　薔薇女史

『僕は今年四十歳になる、孔子は四十にして惑はずと云ひましたが、僕等は四十歳であるが、何うも惑はずとは云ひかねる。であるから、今日この幼稚園主催の講演會に出たのである。』(笑)

『僕には好きなことが澤山あつて、殆んど數へきれない程だ。が、併し厭ひなことは澤山ない。その澤山無い厭ひなことのうちで、僕は宿屋は大厭ひだ。だが茶代など出すのが惜いから宿屋が厭ひだと云ふのではない。有りさへすれば、隨分、財布の底をはたくことの無いとも限らぬ。

『が、それは兎に角、僕は宿屋が大厭ひだ。だから成るべく、宿屋に泊らぬ。何處へ旅行しても知人のある處ならば、その家へ泊る。知人が無ければ、知らぬ人の家へ泊る。』(大笑)

以上は木下尚江氏が、先つ頃、某幼稚園主催の講演會で述べられた「宿屋」と云ふ題の講演の劈頭第一であります。場處は本郷會堂、立錐の餘地も無きまでに群集せる聽衆を演壇の上から瞰下しながら、衣服も羽織も縞の袖無し、何の虚飾も無い様子で徐々として述べ來る處、至つて平民的――而も眞面目に人を笑はせる處に、價値がある。學生社會から大歡迎にもてるのも豈し理由あることと思はれる。

小説『火の柱』を讀んで以來、一度は何んな人かと思ひ讀者なる尚江氏に面のあたり會つて見たいと思つて居たのが、圖らずも現實されて、この本郷會堂で顔を合せるとは實に意外でありました。

顔を合せて見ると、成る程と打ちうなづかれるやうな人――と云つて別に純粹な詩人風でなし、と云つて、實業家では御座らなし、と云つて又た、格別御様子の好いお方とは思はれぬ。

平民的―平民的風采と云つたならば、たしかに木下氏の風采を評し、その擧動を評し、演舌を評し得て充分なことをと思はれる。今や雑誌『新生活』に胸中の千々の思ひを述べて居る尚江氏、幸に健在なれ我が『愛國婦人』讀者諸姉のうちには氏の小説とおなじみの姉妹もあらうかと、風貌、風變りな尚江氏の細いスケッチを、こゝに御紹介いたしました。

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂

電話下谷(特九六五番　一二四四番)

東京市日本橋區通一丁目

合名會社　森村銀行

電話(特)本局六七三番　電話本局四九八番

定期預金　六ケ月以上　年五分五厘

當座預金　百圓に付日歩　八厘

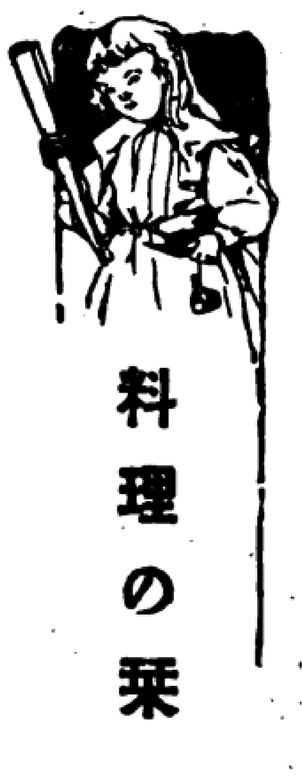
小口當座預金　百圓日歩　壹錢壹厘

めりんす友仙　お志まもすりん　新形大物品々

東京日本橋區人形町通り

赤のれん　おゝた本店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



料理の栞

家庭簡易 西洋料理法

私立英語専門 櫻井女塾長 櫻井ちか子

BAKING POWDER HOT BISCUIT.

1 cup flour.
1 teaspoonful baking powder.
1 tablespoonful lard.
1 teaspoonful sugar.
Pinch salt.

Sift the baking powder, sugar and salt with the flour. Rub the lard into the flour and then add milk or water to make the flour a soft dough and roll out on the floured nard to a sheet three quarters of an inch in thickness; cut into round cakes, set these in a greased pan and bake in a quick over thirty or twenty minutes.

ハツト ビスケツト

△材料▽　メリケン粉（一合）
焼粉（小匙一杯）　鹽（一と摘み）
ラード（豚の油）――大匙一杯）
砂糖（小匙一杯）

△製法▽　メリケン粉と焼粉と鹽と砂糖とを一緒に篩にて鉢の中へ篩ひ込み、その中へラードを入れ、能く手にて揉みたる後、水或ひは牛乳を入れて、手頃に煉り、板の上に粉を振りて、其上に五六分位の厚さになして、ブリツキの形にて丸く切り抜き、焼鍋にバタ或ひはラードを引き置き其上に並べて、テンピ又はストーヴに入れて烈火にて二三十分焼くのです。

△注意▽　之れを煉る時は成可手早くしなければ膨脹れません。酸敗牛乳にて解けば、別にラードを入れずとも、よく膨脹れて風味よろしきものです。

△正誤△　前號本欄和文の初行骨なくは骨のまゝの誤り。英文初行より二行目を左の通り訂正す、

Cut the chicken into small pieces, put into a stew pan,

朝夕の化粧は如何になす可き乎

皮膚を美るはしくする法ありや
白粉のツキを良くする法ありや
ニキビとアレを防せぐ法ありや

化粧の人生に必要なる事は今更申上げる迄もありません即ち文明國ほど此の化粧法の研究は盡くされて居ります我が國でも近來化粧方法に就て盛んに研究せらるゝやうになりましたのは誠に喜ぶ可き現象では御座いますが夫の研究方法が徒らに白粉の批判に止まりて未だ眞正の化粧が研究され居らんのは實に遺憾の次第であります

化粧をするに白粉は勿論必要の品では御座いますが實際のところを申上ると白粉は一種の上塗たるに過ぎません奇麗に艶かに化粧を遊ばそうと思召すなら是非共素顔を美しうするの必要がありますが夫れてないと折角の化粧が斑になつたり直ぐ剥落たりするやうな不細工の結果を生じます然らば素顔は如何にせば美つくしうなるかと云ふに夫は極く譯もない事で當時化粧水として評判最も高きローヤル水を御使用になるに限ります

ローヤル水は皮膚に最も有益なる數種の藥品を調合し之に芳香を加味してありますから之を平素御使用になれば白粉の剥げる憂は更になく

第一　色を白くし
第貳　白粉の毒を豫防す
第參　ニキビとアレ等に効あり
第四　皮膚に營養を與ふ

の四大特効があります從つてローヤル水を平素御用ひなれば決して白粉の毒などの爲に素顔の醜くなる憂はありませんのみならず美麗なる容色を一層美麗にして何時までも艶やかな膚を保有ことが出來ます定價大五十錢中卅五錢小廿錢郵送料十二錢郵券代用の御注文は一割増發賣元は東京銀座壹丁目ローヤル化粧料發賣元佐々木商店で販賣店は全國至る處の洋品店、化粧品、小間物賣藥店にあります

感劇記

田舍女

英いこッておました！　私。はア、あんによの事初めてだに依つて英い事とのう思ひまして。はい。

お芝居と云ふものは、あんによに英い處たあ、村の芝居ばかり見て居たもんにや、思ひも依りましねえ。

愛國婦人會の東京支部ッちゆう處では英いことをなさるんてのんし。

彼の立派なお髭のお方が、出雲の大社樣だつちうこつて、ごわんしたが、全くですかい、のんし！

あんにしても、はア、英いことでおましたによ。

あんによの立派な奥樣がたが、十日も續けて、お出かけなさるとは、私はあ、お魂消ました、のんし。

難有いことでおまへんか。お芝居を拜見して慈善になるとは、何とまあ、英いことではおまへんか。

紙治とか申しましたさかい、あの白い白瓜の幽靈みたやうな優人。あれなあ、喜多村と云ふお役者樣だとは、英う驚くてつちやおまへんか。女でなくて男ですやろ。あんと、まあ英いことでおまへんか。なあ、貴人。

小春とやらになりましたのも、ぶつ魂消る程、奇麗な女ぢや、おまへんか。ひやツ、女で無うて男だすと。これや、ひやあ驚きました。ねえす。

奇麗だすな、あの伊井と水野と云ふ役者は……。

それに、あれは、まあ、なんじよしたのて、おますやろ。あの結構なお芝居を見ながら、婦人の方の泣いておましたのは？

面白うて？、面白うて泣くとは、東京の婦人あ、不思議　もの！

ひやあ彼の泣きながら笑つておましたのも…。ひやあ、那も面白うて？、東京の婦人は、また格別と、私、はあ、熟々英いことと思ひましたのんし。

七十錢がものは有つたかと云はつしやるか。あんじよもかじよも、お芝居を拜見した七十錢あたひが、大皇國の爲めの大事な費用になるんだすさかいに、私、嘘にも惜いなんぞとは、思ひもしまへんが！　眞實だすよ!!

久邇宮妃殿下 賜御買上之榮
商標 オペラ香水　大一圓八十錢　中七十錢　小四十錢　[illegible]中廿五錢
松方侯爵家御愛用
東郷大將邸御家用
伊東元帥邸御愛用
商標 オペラ香油　大五十錢　中三拾五錢　小貳拾錢
發賣元 東京日本橋區米澤町一ノ一 鳳舞園 電話浪花四〇三九番
全國の信用ある化粧品賣藥店にあり

婦女子必携寳典
廿世紀の嫁入道具
最終壹千部の増刷
文學博士 芳賀矢一　文學士 下田次郎　先生編纂
日本家庭百科事彙
發兌元 東京神田 振替貯金五百一番 電話本局一〇三六 合資會社 富山房
特價七圓五拾錢（正價拾圓）遞送料市內四錢市外卅六錢臺灣樺太清韓各七拾錢
本書體容
裝釘極美四六倍判紙數千五百餘頁●六號活字廿四字詰卅一行三段振假名附●大小項目約三萬●精巧木版挿圖約千個●石版廿回刷彩色寫生圖畫（二頁大）十七枚●石版八回刷精巧詳密地圖（本邦世界各國及著名都市）十四枚●小紋更紗模樣精巧寫眞版四枚
見本進呈
社會の進歩は家政の整理に子女の教育に婦女子の責任をして重大ならしめ、現今嫁娶の一大要件として名門家格よりも持參金よりも良節良持よりも最新智識の修養を尊重せしむるに至れり。然に女子は學年少くして各種の學藝を修業する餘裕を有せず、故に退學後は勢ひ書物に依り獨修せざるべからず。本書は此點に重きを置きて編纂せるものにして家政家事經濟衣食住手工技術遊藝音樂禮法等術も女子に適切なる事項は勿論、衛生醫療より理化博物文學等の學科に至る迄詳細綿密に解說し、實家處世に必要なる條件は一として網羅せざるなく空前無比の實用寳典として二十世紀の嫁入道具として既に社會各方面に歡迎せられ、發刊以來約十五萬を實售したるに拘らず、尚各地方より續々注文あり殊に學校會社等より頻に増刷を慫慂せらるゝを以て、今回絶版として僅に一千部を増刷し聊か江湖の厚誼に酬ゆることゝす即ち今回限り原版は解版し去るものにして爾後絶對に需要に應ずること能はず。乞ふ速に御申込あらんことを。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

素人醫者

大野病院副院長醫學士　三原新太郎

御婦人方に、この乳房と云ふことはごく必要なことであつて、種々夫れに就て御注意申上げることが、醫者として必要なことであらうと思ひます。又御婦人方も各自家庭の中に居らつしやるからよし家庭に御居でなくも他日家庭の人となる方と思ひますから——各自が身體の各部のことを、例ば自分の體には、どんな病氣が在るとか、何んな病氣はどう云ふ風にすれば癒るとか云ふやうなとを、研究なすつて置くことが、必要だらうと思はれます。

全體日本の婦人は泰西の婦人に比較ますると、餘程(過言かは知りませんが)衞生思想が乏しいやうであります。其證據には一寸風邪をひいた位で直ぐ醫者を呼ぶ。少し指の先を切つて血が出た位で醫者を迎へると云ふ風であります。で、何も衞生思想の深い爲めでなく、唯、醫者にかゝると云ふやうに思はれます。

御承知の通り、各自衞生思想を保つて自分の身體の健康を保つことと及び子供の時代の衞生狀態を檢ると云ふやうなことは各自に爲らなければならぬことであります。それで今是からのお談も言葉を代へて云へば、醫學上の智識を備ふるのに御參考の爲めと考へまして、これを初める譯て、自分が醫者の癖に可笑なやうてありますけれ共、極く容易く御諒解になるやうに申上げて見やうと思ひます。

乳房の話

先づ乳房の御話を致しましやう。小供を養育に一番必要なものは、この乳房であります。大抵な小供は、之に依て生育られる。若し乳房に故障が出來て、乳汁が出ぬやうになつたならばどうしても、小兒に牛乳を遣らねばならぬとか、又は其他の食物を與へねばならぬのであります。假設牛乳を遣り、又他の食物を與へましても生育は致しますが、什樣しても是に依て育られました小兒は善いものではありませぬ。

乳房は斯の如く、御婦人にとりましては甚だ必要なもの、大切なものでありますのに、存外この點に就ての知識と云ふものは進步して居りませぬ。御存じの通り、乳房は種々な部分から成り立つて居ります。ごく簡單に說明しますると、俗に乳首と申ます所は醫學上、乳子と申ます。この乳子の周圍に黑く輪を作つて居る所を、乳輪と申ます。皮を剝いて見ますと中には、脂肪組織があつて其中に結締組織がある、乳汁は其中に在る乳腺と云ふものから分泌のでありまして、其形は丁度葡萄の實のやうなものてあります。そこから分泌する液は、輸乳管に依て出るので、その管の數は、十五本から廿本あるのが普通てある。その口は皆乳子の處へ續いて居るのであります。てありますから、外界との交通は乳子の所で致して居ります。乳房と云ふのはその總稱であります。乳房は大概普通の人ならば二ッありまして、前へ即ち胸部に附いて居りますけれ共、人に依りますと、二ッより餘計あることもあるし、又胸の所に無くして他の場所にあることもあります。極く面白い御話は(ロバートとの報告によると)或る一人の婦人は大腿の兩側に在る乳房に依つて小供を養ふて居ると云ふことて、して見ると足に在つたので、胸部に計り乳房が在ると思ふと大に違つて居ります。併し是は誠に特別な例てありまして、始終在つたら大變なことてあります。……次回には乳房の病氣に就て御話致しましやう。

△實用問答姙產婦篇△△△△△△△△　大瀨醫學士監修
日本橋箔屋町丸山舍書籍部發行、定價五十錢、郵稅六錢、詳くは次號に紹介す

醫院案內

婦人科產科 榊病院
院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保德太郎
副 醫學士 田代謹二
婦人科產科 每日午前診察
婦人科的外科
外國留學中
婦人生殖器病
泌尿器病及內科
一般火木土午後診察
●施診火木土自午後一時至二時
麴町區三番町三三(電話番町三九五)

東洋內科醫院
院長診察月、水、金、午前、松田醫學士診察火、土午前、窮者施診火、木午前入院診斷後隨時應需
松田、林、兩副長ハ目下當院ニ在勤
電話本局八八八(病院用)八九八(私宅用)
東京市神田區駿河臺鈴木町二番地(御茶水橋畔)

南湖院
院長醫學士 高田耕安
神奈川相州高座郡茅ヶ崎村濱(停車場所在)
河野、中村、兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後○同時窮者施診
副長診察月、火、水、木、金、土午前
○入院診斷隨時應需○

峰內科醫院
神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世

內山小兒科醫院
午前宅診午後往診 入院隨時
淺草區下平右衛門町十七番地
柳橋通り(電下一三六五)

小兒病診療
淺草區福井町貳番地 宅診午前 往診午後
醫學士 內田愼太郎
●電話下谷七一八番

腦病 脊髓病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障害等
●午前 自宅 神田多町壹ノ八
●午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町
醫學博士 土田卯三郎

內科專門 杏雲堂醫院
神田區駿河臺 電本一六六九
院長醫學博士 佐々木政吉

內科一般 板垣亨
東京神田美土代町三丁目十九番地
午前宅診 午後往診
電話本局貳千九百七十番

產科婦人科專門 岩田病院
診察每日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸
電話下谷一〇二八

鳥山內科院
院長醫學士 鳥山南壽次郎
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地(電話浪花六九七番)
診察時間 自午前九時至正十二時
內科婦人科 院主 岩佐純
內科 院長 ドクトル 岩佐新
內科(獨逸留學中) 副院長 醫學士 高田壽
外科 醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

◯院長 ドクトル 木村順吉
婦人科產科 木村病院
京橋丹間堀一丁目角(電話新橋二六七〇番)

◉◉婦人科 小兒科專門
午前宅診 午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

私立東京女醫學校
●五月一日新學年開始●入學試驗四月廿五日
●高等女學校卒業者無試驗
●規則郵券三錢●入學志望者は四月廿日迄に入學願書を東京麴町區飯田町四丁目九番地事務所又は牛込區市ヶ谷河田町六番地本校事務所へ提出す可し
前期生百名 後期生五十名 募集

耳鼻咽喉病診療
入院應需
淺草區向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院

◉婦人病專門 櫻井醫院
院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮樣前
電話新橋三三二四

岡田病院
京橋區南大工町三
●(火木土)院長醫學博士 岡田榮吉●
●(月水金)副院長醫學士 久野正太郎●
電話本局二四〇一

齒科治療
ドクトル 齋藤清太郎
麴町有樂町帝國ホテル向(電本千五百十九)

小兒科專門
瘰癧症(腺病)小兒貧血症、
結核性腹膜炎、腹水、(脹滿、脾疳)
小兒皮膚病、百日咳
小兒ノ虛弱體質ハ前記ノ症ニ罹リ易ク動スレバ不治ニ陷ル余ハ獨逸留學中研究セシ體質强壯法ヲ以テ斯病ノ豫防及ヒ治療ヲ施ス
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
東京日本橋區數寄屋町一、(電本百八十)

ゑり善
東京日本橋區堺町通ふきや町
電話浪花千二百七十番

商品概要
金銀時計類及附屬品、眼鏡類
寶石入指環、金銀盃
茶器類、洋食器、七寶花瓶
貴金屬美術裝飾品 各種
大勝堂
東京銀座通尾張町
電話新橋二二六四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俳句
内藤鳴雪翁選
—春季雜題—

天
宮城 山形幸子
灯を捧ぐ雛宜か白髪の春寒し

地
三重 鈴木はる子
物言ふて眠る人あり春の雨

人
岩代 長谷川よしの子
嫁入の荷物つゞくや風光る

秀逸
聞き慣れし馬士か小唄や月朧　埼玉 水野淑子
春行くやわれにくせある雛手　京都 山本千代子
白梅や惣生背戸に米あらふ　同 人
舟出して見かへるきしの柳哉　東京 鈴木榮子
富士は先つ夜の明に鬼四方拜　長崎 末廣數枝子
若水や其みなもとは神代から　仝 人
朝晴や空一ぱいに梅にほふ　仝 人
摘草の何處まで行かん廣野原　三重 荘司たれ子
飛びなりる丸木の橋や蛙の聲　仝 人
更る夜や琴の音もして梅の窓　仝 人
倒れたる柴戸越しぬうめの花　仝 人
川風にふかれて伸ひる柳かな　愛知 下郷末野子
小春日や乳母か宿に姉いもと　岡山 清水梅子
尺八を吹くは誰か子そ梅月夜　仝 人
花に明け花に暮るゝや旅三日　青森 木村てつ子
戰勝て馬をあらふや春の川　鹿兒島 藤野鈴子
春雨や碁盤かこみて人老いぬ　靜岡 安永みち子
此の家に娘あるへし梅のはな　岡山 西村具子
桃咲て里に老いたる女かな　下谷 栗原花園子
若草の春はありけり新領地　東京 鵜飼とく子
若草に蝶の行衛を尋ねはや　仝 人
蝶の子のふたつもつるゝ春霞　備後 金原なを子
立て籠て靜淋しさよ紙ひいな　宮城 山形すみ子
雛の灯やかすみ隔つる夜の欄　仝 人

元祿の姿ゆかしや桃の花　三河 石川きよし子
棒かほろ樣に雛のひろ燈かな　大分 桂木文子
あかなひし雛千金の笑ひかな　三重 西山久壽子
雛店の雛に見惚るゝ少女かな　仝 人
雲雀鳴く野を飲然と汽車の音　山口 末田竹子
若鮎の一寸にして雛の膳　宮城 山形幸子
山も里も一夜に青し春の雨　三重 鈴木はる子

雛菊
—アンデルセン—
あきら

上

或田舍のずつと奥で、往還からさう遠くない處に一軒の田舍家があります。皆さんは乾度御覽になつたでせう。前面はペンキ塗の板圍をした小さなお庭になつてます。この塀際の一番繁つた靑草の中に、小さな雛菊が生えてます。

お日樣は雛菊を、お庭の中の綺麗な飾り立てた花と同じやうに、暖にお照しになるものですから、のんびりとだん〳〵育つてゆきました。

或朝のこと、雛菊は小さな黃色の太陽を眞中にして、其周圍から出る光線のやうに輝くばかり白色の小さな花瓣を開きました。雛菊は自分を此草深い處に訪ねてくれる者があるなんてことは、決して思つては居りませんでしたが、それでもなほ自分の貧しさや賤しさを恨むやうな事は決してしませんでした、——どうして怨むどころですか、喜んでるんですもの。

雛菊はお休日かなんかのやうに上機嫌でしたが、其日は普通の月曜日なので兒童達は學校に出て腰掛に並んでお稽古をして居ります、其時雛菊も亦緑の小さい莖の上に坐つて、暖いお日樣や四邊の萬象から神樣の御慈の限りの無いことを學びました、さうして自分が心竊に感じて居る事を、いかにも明瞭といかにもうるはしく雲雀が歌つてるのをたのしく聽いて居りました。

雛菊はこの歌つたり舞つたりする事の出來る、愉快さうな鳥を崇め瞻仰るのでした、嫉むなんてことはなく。

「私はあの所好な雲雀に逢ふことも出來るし、あのうるはしい歌を聽くことも出來る、それにお日樣は照して下さる、風は接吻してくれるんですもの、まあ何と私と云ふものは仕合せなんでせう！」

と滿足に感じてました。

ところであの杙圍の内には、澤山の花が容子振つて高慢に構へてゐます。しかも、薫の惡い者ほど得意がつてるやうです。芍藥は薔薇よりも大きくならうと居丈高に立つてます、何も大きいと云ふことが物の總體ぢやあるまいし。鬱金香は中でも一番華美な色だと云ふことを、自分でもよく承知の上でしたから、どの花よりも賞美されやうと蠟燭のやうに直立てました。

是等の花は塀の外の小さな雛菊なんか氣にも止めません、けれども雛菊の方では能く眺めては、なんて立派でさうして倚麗な花だらう、雲雀は無論舞ひ下りてあの花の處へ入らつしやるのだらう、私はこんな近くに居て立派な花を視ることが出來るのは、眞に有難い事だなんて考へてました。斯う考へますと丁度ピイ〳〵と雲雀が空の彼方から舞ひ下ッて來ました、あゝ、それが芍藥の處へでも、鬱金香の處へでもなく、靑草の中のつッまけしな雛菊の處へ。

雛菊はもう如何してよいのやら解らない程、餘りのうれしさに胸騷がするのでした。

「あゝ、なんと柔な靑草だらう、さうして此小さな花の可愛いゝ事つたら、黃金を心に、白金を衣に」斯う唄ひながら花の周圍を跳びまはつてました。

それは雛菊の蕋が金のやうに黃に輝いて花瓣が銀のやうに白く輝いて見えたので。

讀者欄

餘寒きびしく御座候處みな〳〵樣御恙なくわたらせられ何よりと祝し上まゐらせ候扨先日は數ならぬ短文御當選にあづかり誠に榮譽身に餘り申候その上　總裁宮殿下御染筆の掛軸井になつかしき姉君達のものし給へる美しのゑはがき御送り被下かたじけなく、長く紀念として珍藏致し申べく候先はとりあえず御禮までかしこ(天野園子)▲第百四十七號下田次郎先生の御說「話の種」に付ては、つれ〳〵私も思ひ居り候ひし事に御座候爲一入感じ入候、就ては如何なる書をよみ候はゞ、斯る話の種なうる事出來申すべきか御教示願上候(清子)▲どんな書物でも注意して讀めば話の種は出來ます、世界お伽噺や日本昔噺なども宜しいでせう。麻谷漣山人のが博文館から出て居ります(記者)▲私は滿二ケ年間御社の愛國婦人愛讀致し居ります、吳市幹事部より配附を受ますから代金も全部へ拂込ますが、何日も發行日より十日間も遲れます、(男子)▽本社では決して發行日を遲らせるやうなとはありません。幹事部にも種々手數を重ねる事が御座いますから、それで遲れるのであらうと存じます(記者)▲一筆申上候先日は未熟にもかゝわらず新體詩及短文當選の由にて御賞與御惠み下され、確かに落手致し候深く御禮申上候、また〳〵御評をわづらはすべく候間宜しく御願ひ申上候先は延引ながら御報知まで(安永みち)▲應募和歌及俳句等は葉書にて上げても宜しく候哉紙上にて御返事願上候(安久香子)▽葉書でも何でも宜しう御座いますが唯、住所氏名を明瞭に願ひますそして成るべく澤山御投稿なさいませ(記者)▲拜啓先日は和歌俳句當選に付賞品御惠送下され辱く受領仕候先は御回答まで(渡邊豊子)▲ああ御親切に御添削たまはり深く有がたく猶この上も宜しく御願ひ申上候御書中御注意のほども忝なく承り參せ候また今日は美事なる御扇子一對並に花にもまさる姉君たちの筆のあと美しき繪端書澤山御贈り下され誠にあり難く御厚禮申上候賞など賜はる程のものならねを、かへりて御耻しう覺え參らせ候かしこ。寒げなる辻占賣の聲をきゝつゝ燈火の下にて、(富士子)▲兩三日前和歌二等なりとて結構なる賞品いたゞき候へども、未だ新聞も參らぬ事とていかなる間違ひかと其まゝに致しおき候昨日新聞參り嬉しく夢の如く覺えられ申候先頃貴き品頂き今亦結構なる品いたゞき重ね〳〵嬉しく厚く御禮申上候先は取あへず亂筆にて(古川よれ)▽賞品は雜誌が出來ると兩三日中に御送りなするやうになつて居ります、貴女のは取次所の方で遲れたのでせう(記者)▲一總裁殿下御染筆御掛軸一繪端書拾五枚右應募和歌當選賞品として御送り被下有がたく御禮申上候(西山ひさゑ)▲先稿は扇子及繪端書早速御惠送被下誠に有がたく、正に頂戴仕候間御安心被下度候今後とも御指導の程偏に願上候(中山由子)▲拙文の賞品として扇子唱歌大日本未來の鏡一部繪葉書十枚御惠み下され難有く誠に思ひもよらぬ賜物にて永く紀念と致し珍藏候重ね重ねにも御禮申上候末筆ながら貴社御一同樣の御康を祈上候(春)▲爾秀百佳選應募用紙三枚共とりまとめて四月末日迄に御送り申ても宜しく候哉御伺ひ申上候又歌題は四季何れにても隨意に候哉(さゐ子)▽用紙三枚取纒めの上御送り下すつて差支御座いません又歌題も隨意、そして當作でも差支御座いません(記者)▲先日は主婦の職分贈り被下今亦尊き御方の御染筆を賜り重々難有家内一同謹んで拜見仕候家事の暇には勉めて勵學致すべく候間何卒一層の御指導を願上奉候先は不取敢御禮迄(加藤ふみ)▲拜啓いにし日さし出しつる和歌ゆくりなくも一等に當選いたし候由にていとやんごとなきあたりの御水莖のあとに添て姉君たちのゑはかき賜りいとかたじけなくあつく御禮申上候、しつかやのかきれの小草君かてにつまれん者と思ひかけきや(川村章子)▲百佳選は是迄應募致した和歌でもよいので御座いますか(良節子)▽宜しう御座います(記者)▲春寒烈しくおはし候處貴社皆々樣御機嫌ようゐらせられ目出度存候扨賞品御送り被下深く御禮申上候私は歌が下手の横好にて候間選に入れ下さるだけにて結構なるに、賞品まで賜りては身のおき處なきまで相濟まず候以後は入選だけは御預け申上度貴社も小包料も入用の事なれば歌だけ御掲載致下候樣致度候かしこ(日野千鶴子)▽御志の程ゆかしく存上候今後御同情も願はしく候然し規定は規定として今後も御當選の際は御送付申上候間左樣御承知被下度、又他の方面にて御盡力下され候はゞ御志にも叛かざるを得べしと存候猶竹内樣への見本雜誌は本日御送り致候間これ亦御含み置被下度候(日野千鶴子)▲記者樣には日々嘸かし御多忙の御事と推上候扨此度御募集の百佳選に就て用紙は七面に附載あるを切拔き使用致候てもさしつかへ無之候哉不案内に付き何卒御教示仰ぎたく候(桂木濟閑女)▲此度和歌當選の賞品として主婦の職分及嬉しき詩友の寄贈のものし給へる美しき繪端書十數枚御惠興下され誠に〳〵うれしく存上候猶此後とも勵み候て御厚情に報いまつらんと誓て御禮申上候(阿部秀子)▲一筆啓上候いつも乍未熟の餘法御添削には中々に御骨折の事ども御禮申上候此度も御言葉に甘へまた〳〵御願ひ申上候扨私事俳句は始めての事とて何も〳〵わかり兼候故ことに宜しく御目通し下され度、誰は興味深からんと存じ、聊と自筆に致し候故御笑ひ下され度先づは御願ひまで(安永みち)▽前號は三月五日に出來ましたから本社直接購讀者には同日の夜分發送致しました。地方の取次へは六日午前中に發送濟になつて居りますから左樣御承知下さい。なほ前號の文苑當選者へは去八日凡て賞品を發送致しました今後本誌に關することは凡て此欄で御回答申上ます(係)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新體詩　編輯局同人選評

一　梅を折るとて
岩代　長谷川よしの

けふは日曜御客があるに
松ちや情なし桃は未だ咲かぬ。
ほんの一枝活るじやものを
さぞや惜しかろいやでもあろが
ゆるしておくれよ匂ひ鳥。

評　輕妙

二　わかれ
陸前　山形ふみ子

あな悲し別れとなりぬ
翌日ありて猶こひしきに
いとせめてつらきかなしき。
あすなくも別れといふ日
勿れとて涙頰傳ひ
氣も遠みよよとし泣けば
うつむきて佇む君が
一すじのほつれ黒髮
しめやかにうちてそふるふ。

評　聲調整ひたり、佳什。
又曰　猶一層深酷に歌ひなば、面白き作を得む

三　山
靜岡　安永みち子

うすぎぬは風にゆらぎぬ。
裳すそとる委氣たかう
よもの山見えつかくれつ。
綠こく重ねし小袖
藍あはくかけし唐衣。
うすぎぬは風にゆらぎぬ。

雲もなき青一色の
空かなた、富士こそ立てれ。
白栲の衣ゆたかに
山すぶる王のたかぶり。

評　技巧の熟練、読を逐ふて加はれるを見る今後つとめて思想の充實を期せられたし。

○

山　東京　水谷光子

花ふゞき振袖うちて　香に匂ふ京の空は
人與ず快樂のゆふべ　紫に霞たなびく
山かなた雲の影なく　瑠璃色の富士のたかねは
秀でたり浮繪のやうに。

評　街から見た富士の様よく歌はれたり、

山　青森　木村てつ子

春の神山御姿は　衆匂ふ薄物の
御裳を曳くかいとかろく。
南の海に此の山の　姿うつして日もすがら
移らふ様を眺めては　一人ほゝゑむ水國の春

評　佳

山　廣島　金原直子

かげらふもゆる野に立ちて
四方の眺を見わたせば
霞かさなる山の邊に
匂ふ櫻もおぼろにて
人聲わまたさゞめくは
花に浮れて今日も過ぎけむ、

評　佳。

ふせやの春　京都　花輪よしの子

いと咽けき春の夜の　夢より醒めし時を
梅の薫りに誘れて　靜かにうたふ鶯の
聲もきこえて懐しき　浮世にそむく隱家も
梅咲てより朝なく　なれに訪ふゝ嬉しさよ。

評　もすこし新しい方面を御歌ひなさい。

停車場　三重　西山數子

V氏が譯る日本觀　そがある中に停車場
驛夫の勞に酬ゐんと　「コンミッション」をぼけっとに
さぐり渡せば赤帽は　目にだにかけず消かりき。

評　新しい事を歌ふと勸められるのは結構です。

簡易なる冷餅のこしらへ方
丹後　安久春子

先づ五六寸位のまわりの麻袋に、洗ひたる餅米を堅くつめて、口をすへ湯の中にてよくたき、中なる米の煮えし頃に取出して、袋を解き端より適宜に輪切りにして、黄粉と白砂糖をつけて食します。又この袋の内側に五本の丸箸を配置よく入れ置けば、梅花の形が出來て一寸綺麗て御座います。(此種の寄書を歡迎す。記者)

短文　停車場　編輯局同人選評

二等
越後　歌川美知野

苦學は郷里て想像した程、容易なものではなかつた。あらゆる風波と戰つた此一年有半に得たのは病氣、しかも不治の難疾であつた。秋の夕暮かつては前途の希望に胸をどらせた上野驛に、今日は藥瓶片手に東北行の列車を待つて居る、口惜しさ、辛さ。

評　悲慘なる境遇、斯かる思想を奈邊にか得たまひし。

三等
越後　阿部梅香子

學業成りし嬉しさに、今將に咲出てんう上野の櫻花を後に、御壯健て、御機嫌よう。時々御便りをね、……懷しき友垣の御聲に送られて上野停車場を發ちしは、早や二年の昔となりぬ。あはれ思出多き上野ステイション。彼の日彼の時の彼の友垣と再び彼處に恙なき御手握らん日を思ふ。

評　同じく上野停車場を出發せる人にして一は前者(一等)の如く一は此の如し。諫詞ながら實に運命ほど奇しきは無かるべし。

○

東京　水谷光子

家に歸る樂み、別れ行く悲み、見んて行く喜び、人さまゞの思ある人を乘せて、列車は停車場を辭しぬ跡は只春風ぬるくプラットホームを吹いて、胡蝶がひらひらとシグナルの邊にとぶ長閑さ。

評　流暢、

靜岡　安永みち子

靜岡驛の片隅、發着時間には餘程間があると、時計までが茫然した自分を嘲り顏。ほの暗い電燈にすかして見た端書は午後四時三十五分とある。それからはや三度ばかり往來した。靜岡行止りの汽車が着く。一人も見遁さじと架橋の下に佇む。待つた人は遂に見る事が出來なかつた。(日記の一節一月廿六日より)

評　器用なる筆致。

備後　天野園子

汽笛一聲汽車は今懷しき我師を乘せて動出した。こぼさじとかれて誓ひし別の涙、今は止めん術もない。人目なくば泣きてく泣き盡さんを、母と賴み子と慈しまれし過去四年の歴史、心に浮んで無量の悲しみ涙となりて一時に胸に込上げる。

評　女らしき文なり、敬服。

東京　淸岡忍子

けたゝましい鈴の音、上野發午前八時卅分仙臺行は今出る處て、百種の考物、男女の先に爭ひ乘り込みし跡はさながら大風のないだ跡のやう。姉上待つ間のつれづれに構内そゞろ歩きつゝ、いかに變らせ給ひしならんなど思ふ。

評　以下「計らず昔て敎ひし田舍の婦人と逢ふ」狀景を叙述されたるなれど、類想いと多ければ除きぬ。

東京　鈴木榮子

着いた計りの列車から出る人、發車するのへ乘る人其中を赤帽が右往左往に馳せ歩く。種々の思ひを抱く旅客を乘せて、やがて發車する。

評　寫景、

山形　阿部さゐ子

發車時間がまもないので、停車場は大概人に埋められた。そこに若い娘をつれて來た、お婆さん。見たところ親子とも見えず。氣のせいか、やがて來るべき悲劇を思ひ、その若い娘の身の上を我は氣づかつた。

評　佳

京都　松谷春子

友の君の東都に遊學し給ふは今日、日頃むつびてし君のいか計り嬉しくも思召すらん。はや來ませとのみ君は改札口を入る。汽車は君をのせて妾を跡に徐々と搖き出した。

評　寫生の尤なるもの、

陸前　山形ふみ子

お待ちなせえ、旦那！　よぼくく車夫の姿は闇より出て闇に消える。向ふより威勢よく馳せて來た若衆が、揺れ遊ひざまにヘイヨの掛聲、いづれ停車場に馳せてゆくのであらう若衆は威勢のよいものだ。

評　佳

伊勢　日野千鶴子

別れを惜むとて汽車の窓より、友の簪をぬきて打ふり給ふに
なつかしきともかうちふる花かざし
見えずなるこそつれなかりけれ。

評　簡潔

鹿兒島　藤野錠子

二等室の扉を明けて出て來た姪、妾を見ると走せ來り、叔母樣と袖に縋る。春ちやんとのみ、後は搔くれる涙、昨夕不歸の客となりし報知に、飯る春子を停車場迄迎ひに來たのてある。嗚この一瞬時、あはれ母なき彼が身の上、思へば憐れなり。

評　簡潔に書かれたし、

三重　中島千萬子

驛夫にたしなめられつゝ僅かの時間にて乘おくれたる、汽車の行手を見て怨めし顏なる田舍人の氣の毒さ。

評　短文の尤なるもの。

青森　木村てつ子

シグナルを見て速力をゆるめし列車、停車場は今更に騷がしくなる。驛夫も驛長も警官も旅客も凡て姿勢を改めると、徐々に汽車は着く。あんばん辨當の賣聲男ましく聞える。

評　面白い處に眼を着けました。

山形　三浦芳野子

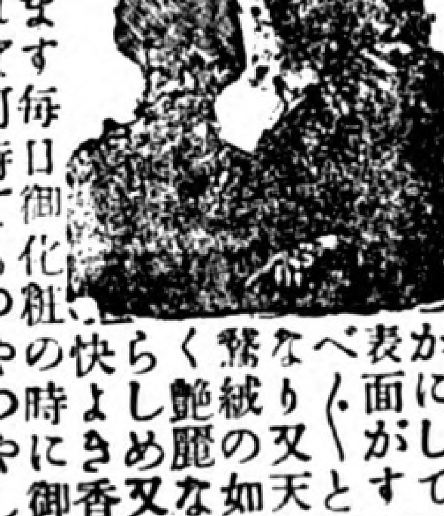
車より窓の花を眺めつゝ、停車場に着いた。山形迄の切符を買つて休んで居ると、威勢よく車を驅つて來る夫人令孃さては女中にカバンもたせて、シガーを吹かし乍ら、濶歩する紳士、赤毛布に草鞋穿きの老爺、折から時刻になつたので停車場の內は一しほとよめき渡つた。

評　停車場の景巧みに寫されたり。

皮膚の營養上　衞生美顏　容貌の美のために特に薦撰する良劑「シモン、グリスリン、クリーム」

「シモン、クリーム」は近頃の製造品ではありません久しき以前より御使用と御評判を受けて居るのてあります

「シモン、クリーム」は一種の强壯劑と皮膚を柔かくする藥劑とを配合して製造したる衞生上無比の良品てあります



「シモン、クリーム」は皮膚を白くし且つ滑かにして表面がすべくとなり又天鵞絨の如く艶麗ならしめ又快よき香氣を發します毎日御化粧の時に御使用になれば何時てもつやつやしき容貌を保たれます

「シモン、クリーム」はヒヤ、アレ、日にヤケ、汗も、ニキビ、唇のわれ、霜やけ、赤ら顏、又は毒虫に刺された時にお塗りになれば僅かに少時間て其効能が分ります又髯剃の後や小供衆に塗抹しますとすべくとして大變氣持がよく、又美しくもなります

本品は販路が益々擴張さるゝに從ひて僞物が多く市場に出て居りますから御求の際は「シモン、クリーム」「粉をしろい」石鹼共特に登錄商標を御確めの上御購求願ます東京及大阪の三越吳服店を始め各地の洋品店化粧品店に販賣致して居ります

日本代理店　横濱七十番　エー、ハイム商會

Crème Simon

登錄商標

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

▲オペラ香水▼　日本橋區米澤町一丁目一番地鳳舞園發賣のオペラ香水及オペラ香油は外入品を防止して國益の幾分を裨補せん爲、園主大迫貫爲氏が多年苦心研究の末、發明製出せられたるものなるが、芳香と實質とは共に秀抜にして上流社會に好評最も喧しく、松方侯爵家東郷大將邸及伊東元帥邸を初めとし、其他の名門に於ても續々愛用せらるゝに至り、賣行き甚だ盛にして製造方間に合はざる位なりとぞ。

▲和洋裁縫大全▼　目下豫約法を以て盛に購求者を募りつゝある本書は、斯道の大家として識られたる東京女子裁縫高等學院校長小出新次郎氏が、一世一代の事業として積年教授の間に〳〵筆を採られたる古今無比の良書にして、獨り資料の豐富なるのみならず、其說明の親切にして亦通俗的なるが故に、何人と雖ども一として理解し得られざる事なしとぞ。されば苟しくも一家の主婦若しくは未來の主婦たる婦女子諸君にとりても、必要缺くべからざる良書ならんか。

注意　愛國婦人の愛讀者は本書を讀まざるべからず　注意

女子高等師範學校教授　文學士　下田次郎君著

女子の修養

全一冊

洋裝四六判並製美本紙數二四八頁　定價二十五錢郵稅四錢

今や古の女子の敎へ廢れて、新しき敎へ未だ確立せず、女子は日常の生活及び修德の方法に於て、その適從する所を知らざるの有樣なり。本書は、此動搖の時代に在りて、女子に其執るべき道と方法とを示したるものなり。著者は我が國女子敎育の專攻家にして、本書はその多年の研究と、敎育上の經驗とに基きて物せられたるものなり。其所說は奇矯に失せず、因循に陷らず、極めて穩健中正にして、文章また平易に、何人もたやすく會得するを得べし。しかも著者の豐富なる學識と、旺盛なる元氣と、湧くが如き機智頓才とは、他の模倣を許さゞる著者獨得のものなり。されば一度此書を手にせば、遂に卷をおくこと能はず、その終るの早きを惜むや必せり。一切に婦人の一讀を勸む。

發兌元　東京市日本橋區本町　博文館

胃病良藥　太田胃散

新刊！　新刊！

賜天覧

大阪朝日新聞記者　綠園生著

大石内藏之助

大景品附特賣發兌元　隆文館

△一萬部特價（上製）一圓六十錢（並）一圓卅錢　△料送金十二錢　△景品自一等至六等數千圓

◎園藝の好時機來れり◎

伯爵東久世通禧閣下題字　横井農學博士序　澤村農學博士文　福島縣河沼農業學校長　片山熊太郎先生著（五千部限）

園藝辭典

挿畫百數十個　附錄　園藝家の錦嚢　◎草花部◎果樹の部◎樹木部◎蔬菜の部

箱入上製全一冊定價壹圓五拾錢郵稅八錢　▲特價壹圓廿錢▲　特價は四月卅日限り

（金緣菊判半截小形　總頁數五百頁）

發兌　東京市神田猿樂町二番　振替口座八五七〇番　建文館

梅と桃と櫻を合せて見る樣なる婦人世界の妹雜誌

少女の友

三月十日發行（毎月一回）第貳號　一冊拾錢郵稅壹錢　六冊郵稅共六拾錢　十二冊壹圓拾六錢

見よ　◎他に類無き有益且面白き『少女の友』の發行を喜びて我に送らるゝ禮狀は山の如し以て其大好評を知られよ

口繪　人形の御病氣（美麗無比の原色版）　◎各宮女王殿下肖像　◎奇麗な雛人形陳列

▲「村井弦齋先生の少女」には
△少女の父君村井先生のお宅　△村井先生の少女運動場の遊戲
△先生の少女米子さん忠二さん……　△少女米子さんの桃林
△少女米子さんと温室の花……　△米子さんの大廣間
△米子さんの大きな鳥小屋……　△米子さんのお見送
△少女の輪投げとフートボール……　△米子さんと遊んで
右は記者が弦齋先生のお宅を訪問して米子さんと遊んで見た記事です

◎渡り鳥……理學博士佐々木忠二郎
◎面白き繪とき（露子武坊）
◎トランプ國の少女王
◎御相談（お伽噺）……うら子
◎光ちやんのお料理
◎面白き新案わらひ話
◎ハイカラ肩掛編み方
◎白桃緋桃（物語）……湘雨
◎姉さんの百物語……小町
◎作文の募集と懸募發表
◎懸賞繪探し當選と新題

▲第壹號繪葉書大景品當選を知る法發表

東京南紺屋町十二　電話新橋八七四　實業之日本社　郵便振替貯金口座參貳六番　賣捌　各地書店

家庭教育　幼年幼女　繪本　安き第一　面白き事第一　爲になり

繪ばなし　大々好評

三月五日發行　◎第參號　五卷　一冊六錢郵稅五厘　六冊卅八錢郵稅共　一年七拾貳錢

の繪草紙（良き家庭では皆之を御覧になります）

大日本女學會

△新學期を開き會員を募集す▽

本會は女學通信教授の鼻祖にして明治廿八年創立以來四萬人の會員に女子心須の諸學科を講習せしめたり

本會は伏見宮博恭王妃殿下を總裁に奉戴し鍋島侯爵夫人會長として會務を統べ第一流の諸大家講義を擔任す其基礎の確實なる講義錄の有益なる夙に世の定評ある所也

本會は創立十週年に當り畏くも皇后陛下より御歌特賜の恩命を蒙りたり

本會は明治卅六年以來宮中歌御會始に選歌の光榮を擔ひし會員五名に及べり其他文部省檢定試驗に合格せる者も少からず以て本會教授の效果を知るべし

本會は高等科と普通科と二種の講義錄を發行す月謝は高等科五拾錢普通科貳拾五錢也

詳細なる會則希望者には葉書にて請求あり次第進呈す

東京青山原宿二百十番地　大日本女學會　電話新橋一八三〇　振替貯金一一八三六

◎寶丹は原『コレラ病』の豫防藥として發賣せし良劑にして◎中暑◎霍亂◎痢疾◎吐瀉症◎中毒◎心腹痛其他の諸症に大効を奏し普く世人の賞用せらるゝところ今また左の如く新たなる効驗は發見せられたり

日本體育會より御信書の附言

御專賣の寶丹は殺菌力強く且つ細胞の活動を喚起するの効あるを以て肺病の豫防にも適劑なることを確め候間乍序申添候云々

故に寶丹は軍隊・學校・集會・宴席・寄席等は勿論家庭衞生の常備藥として欠べからざる良劑也

東京池之端仲町貳拾七號所有地　寶丹本舖　守田治兵衛謹告

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樂器專門

東洋樂器製造株式會社
代理店
歐米樂器直輸入

協和堂樂器販賣合資會社

樂器種目
オルガン
ヴァイオリン
ピアノ
吹奏樂器
其他附屬品

大阪市西區新町橋西詰北入

兵庫縣龍野町高尾協和堂ト合同仕候

●特約販賣御希望ノ方ハ御一報被下度候

樂器目錄郵券二錢封入申込アレ

生徒募集

私立女子文藝學校

麴町區中六番町六番地

●本科一年級　五十名●選科一年級　五十名

◉其外各級に缺員あり試驗の上入學を許す◉入學申込期限三月三十日迄

◉規則書入用なれば二錢郵券封入の上申込あるべし

●學科高等女學校程度●校舍新築落成●創立廿一年

御園白粉の大發展

御園白粉と御園各種化粧品は原料も効能も優良無比にして眞に天下一品なりとの公評を博し居るは洽く世人の知らるゝ處に候。然るに曩に御園白粉の發賣元丸見屋と東京化粧品御商組合との間に石鹼に關する紛議ありしより需要者諸君の中には是が爲めに御園白粉の販路の差支を來せし如くお考への方もあり且つ多小流言を放つ者もあるやに聞及び候が胡蝶園及び丸見屋の營業狀態は從來と少しも變りなき而已ならず倍す特約店を增加して全國到る處の小間物店。化粧品店。藥舖。賣藥店。洋品店。荒物店。煙草店等にて普く賣捌き需要者諸君の御便宜を計り居り候へば相變らず御愛用下され御最寄の賣捌店にて御需めの程希上候

御料 御園白粉製造本舖　東京芝　胡蝶園　(長)電話新橋七四七

御園白粉發賣元　東京日本橋區橘町　丸見屋商店　(長)電話浪花四四八番　振替貯金六五三六番

春季節草花
洋花植物柄
半ゑり帶揚類

花長伊ネ帶千守絞麻手
季襦達ク止代巾り形が
用袢卷タ○田着て織ら
シ○○イ羽袋○が出
ヨ襦下○織○延らし
♪袢志帛ひ前か毛
ル袖女紗も掛け金

諸刺繡　友染繡入　絞り形　總絞り
流行無地　白刺繡　白紋織出　各種
嶄新意匠優美高尚生粹雅致有は特色
御賣は特に割引仕候

新橋　竹川町十二番　電新二〇二七　本店ゑり治

神田　表神保町壹番　電本局九五二　振替貯金口座第四四〇壹番　支店ゑり治

新橋際　博品館內階下出店　ゑり治

御羽織紐各種
時計紐帶止メ
絹糸編物類房類
⊕印　手柄製造販賣

日本橋區藥研堀町十九番
組糸編物商　⊕　富屋商店
電浪(三九三二番)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●化粧の話　市川左團次

私に御婦人の化粧談を聞かうと仰有るのですか、西洋へ行つて居りました時分には舞臺の顔の研究こそ多少致しましたが、御婦人のお化粧にまては手が屆きませんてした然し見た丈けの事て宜しいと仰有るならザッとお話致しませう私が歩いた中ては佛蘭西の御婦人が一番化粧がお上手かと思ひ升、てすから誰様も美人に見へるので、私が最初巴里へ着いた時に如何してこんなに美人が多いのだらうと内心驚いた位ゐてす、段々滯在して居る内に解りましたネ、彼地の御婦人は總て手置が宜しいので、恰度京都の御婦人の様に、何かなさると直ぐ顔をお直しになる其手際が、頗るお上手てすから、誰様も美人に成つておしまひてす、佛蘭西に次いては伊太利の御婦人が化粧が旨いと思ひ升、英國の御婦人は餘りお化粧をなさいませんが、夫ても鬘屋杯へ參り升と、素人のお方ても化粧の稽古にお出に成つて居らつしやい升、鬘屋て化粧の稽古と云ふのは可笑しい様に思召ませうが、西洋ては皆夫て、斯く申す私杯も鬘屋へ通つて顔を粧つて貰つた一人て御座います、其外牛乳浴抔が有つて、交際場裡にても立たうと云ふ御婦人は常に夫へ浴つて居らしやるから、皮膚も滑らかになり、白粉も奇麗にのる理由てす、随つて牛乳剤を美顔料に用ひて居る事も實に熾んなもので、日本ては牛乳浴と云ふ譯にも行き升まいから、牛乳て製した化粧品丈けは是非欲しいと思つて歸朝て見升と平尾贊平さんのお店から御發賣に成つて居る乳白化粧水『レート』が夫て有ると伺ひましたから、早速取寄せて試して見ましたが、至極工合が宜しう御座い升ので、常に樂屋て用ひて居り升、

大日本婦人録

定價金三圓　豫約特價　貳圓

豫約募集

載録要目（長くも國母陛下を首め奉り、各内親王殿下、各宮妃殿下、華族令夫人令嬢方現代の活動婦人及同じく紳士と稱せらるゝ人の夫人令嬢、又一技一藝に長じたる婦人等一萬七千人の一身（年齢職業里方住所電話及良人の爵位勳功官氏名）等巻頭には各婦人會總裁及會長の寫眞巻末には各婦人會、各女學校の所在と内容

豫約規定　一切前金不要製本完成の上代金引換にて提供す郡部地方は別に郵便料を受く

豫約　三月盡日限　發行所　東京神田三崎町三ノ一　電話本局一四七六番　婦女通信社

豫約申込所　東京神田佐柄木町二十一番地　電話本局三一二七番　博運社

肺炎に罹りたる後スコット乳菓を用て健全となりたる例證

愚息儀肺炎に罹り滿三ヶ月間伏蓐罷在り萬一回復するも結局は肺結核となるべしとの事にて總身肉落ち骨顯れ見るも不憫の容体と相成申候然るに醫師の勸告に由りスコット乳菓を服用せしめ候處未だ一壜も飲み盡さゞるに食慾大に進み總ての經過良好となり現今にては却て罹病前の何れの時よりも健全にて相替らずスコット乳菓を嗜好致候拙者共はスコット乳菓が愚息に與へたる好果を視て右愚息の平癒を以て全くスコツト乳菓の効験の致す所と確認致候

千九百六年三月十一日

シーフキルド、ドールセット街六拾三番地　ジョン、イー、ブレーキー

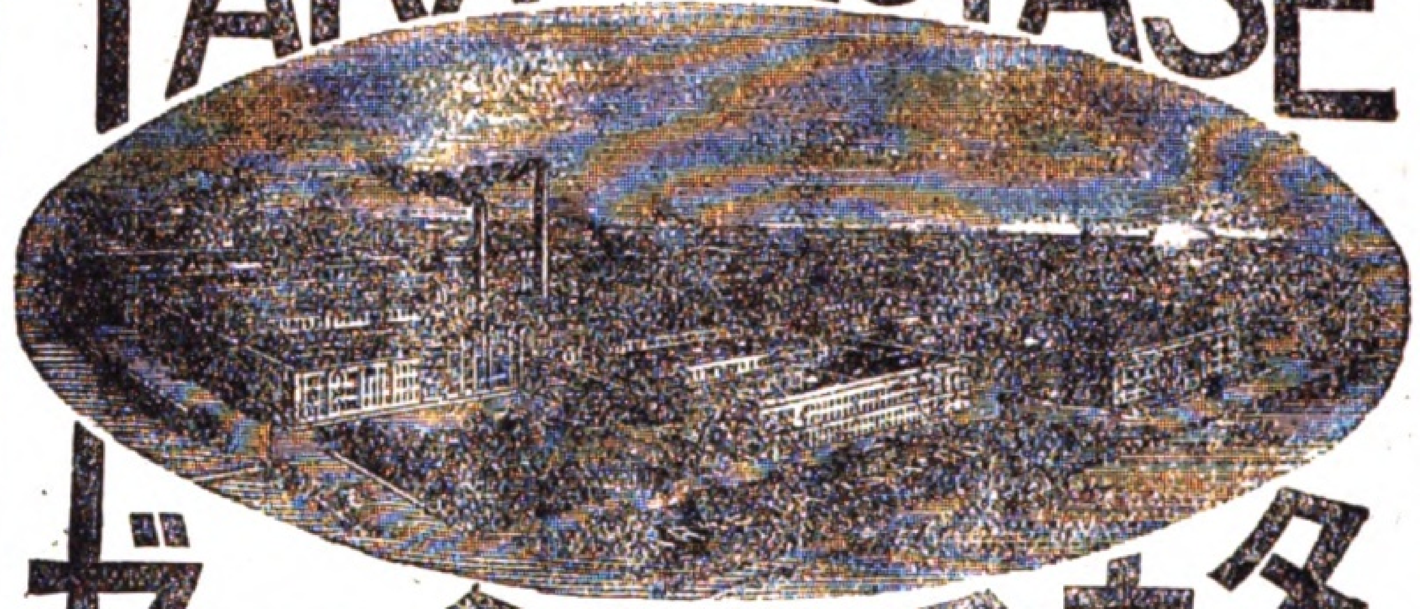
右快復の理由

右ジャッキー、ブレーキー、が肺結核とならずして快復したるは全く**スコット**乳菓中に含有する優逸なるロフオテン**大口魚肝油（最上等にして最高價なる肝油）**が其肺臟を癒やし其全身に良好堅靱なる筋肉を造成せしむるの精力を有したるが為めなり

他のありふれたる**大口魚肝油乳菓**は斯く**スコット**獨得の完全なる製法に由りて充分に消化し易くせられたる最も純良にして最も**活力**に富める肝油にて製せられたるものに非らざるが故に斯の如き偉功を奏する能はず

包裝の大口魚を負へる漁夫は前述の如き驚くべき快復が唯偶然のことに非らずして確實の事實なることを保證す

TAKA-DIASTASE



タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

バークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

高峯氏發見消化新劑

タカヂアスターゼはバークデビス社の製品なり。完備せる装置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶強度均一にして、又其効力永久不變なり。

醫師及藥舗諸彥！模造品製造者の誇大なる虚僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の賣品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舗にて販賣す

代理店　東京南茅場町　三共藥品合資會社

ムスク香水

（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）

○本品は芳香の永く保つ點に於て獨る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目　ホーサン石鹸本舗　本舗　松澤常吉　（電話本局[illegible]）

日本興業銀行

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）

電話本局　一、二八〇〇番　三、三〇〇番　四一番　（特）三七番　一〇二番

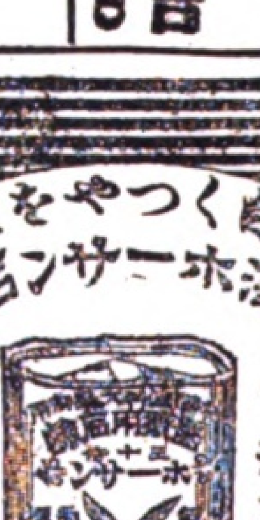
資本金壹千七百五拾萬圓

當業科目

一　擔保附社債に關する信託業務
一　有價證券其他貴重品等の保護預
一　有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一　地方債、社債、株式等の發行募集事務
一　各種の信託事務
一　國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一　國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一　法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一　定期預金、特別當座預金

色白くつやをだす

松澤ホーサン石鹸



大形一個廿錢　小形一個十錢

（にせ物）あり右商標と松澤名義に注意

東京本石町四丁目　松澤常吉化粧品部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

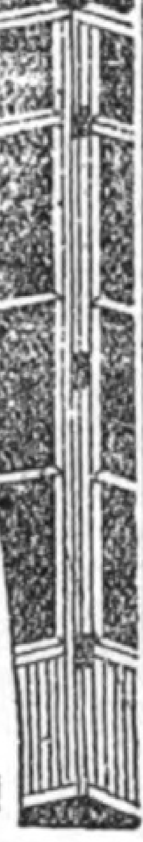
洗用 ワッセル

◉此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◉用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳枚)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶拭してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れの玉子で洗た樣になります又食器臺所道具ば解き掃除にも有効です

定價　拾貳枚入 金拾五錢　六枚入 金八錢　袋入二錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
佐國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
三友商會



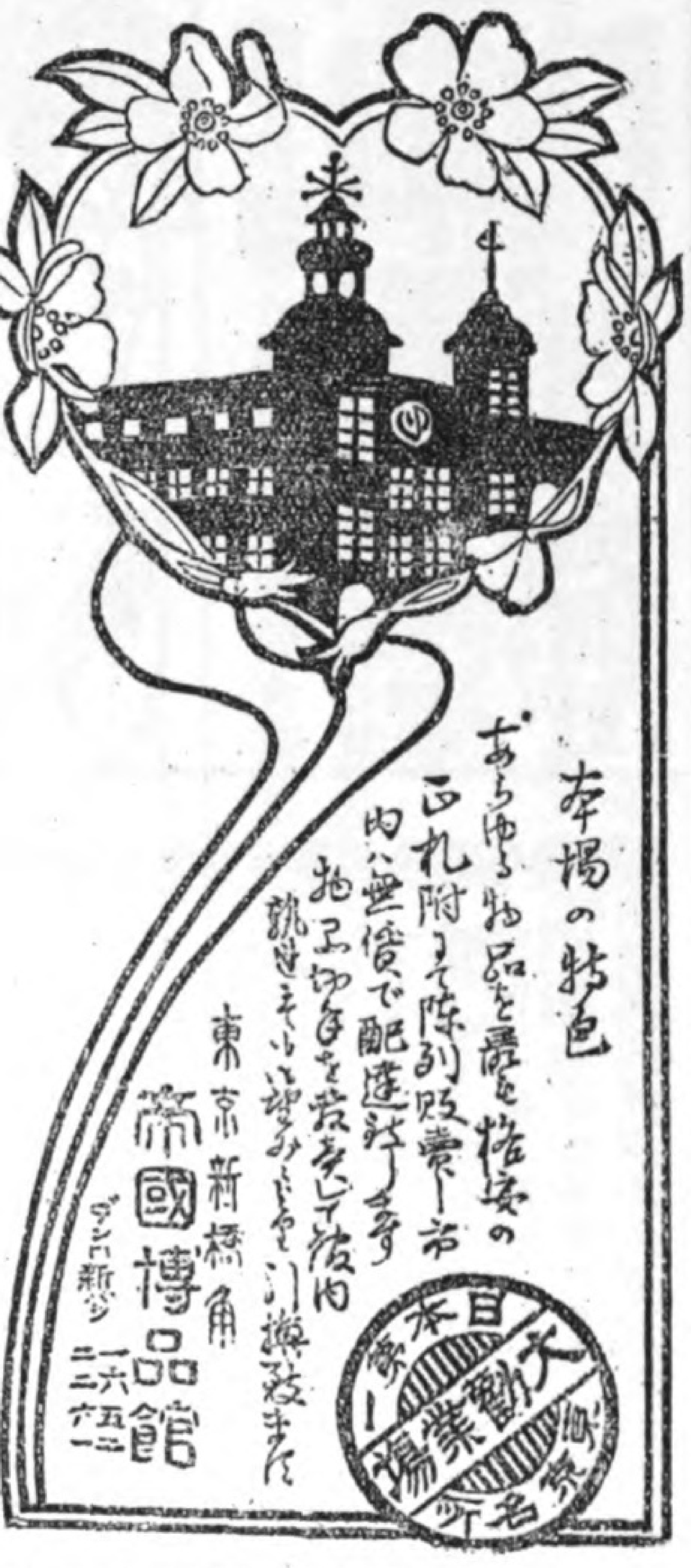
實用新案特許
二枚折 藤井式衣桁
定價 甲 六圓 乙 五圓五十錢 丙 五圓
東京市麴町區三番町廿九番地
掛物箱製造販賣
藤井兵太郎

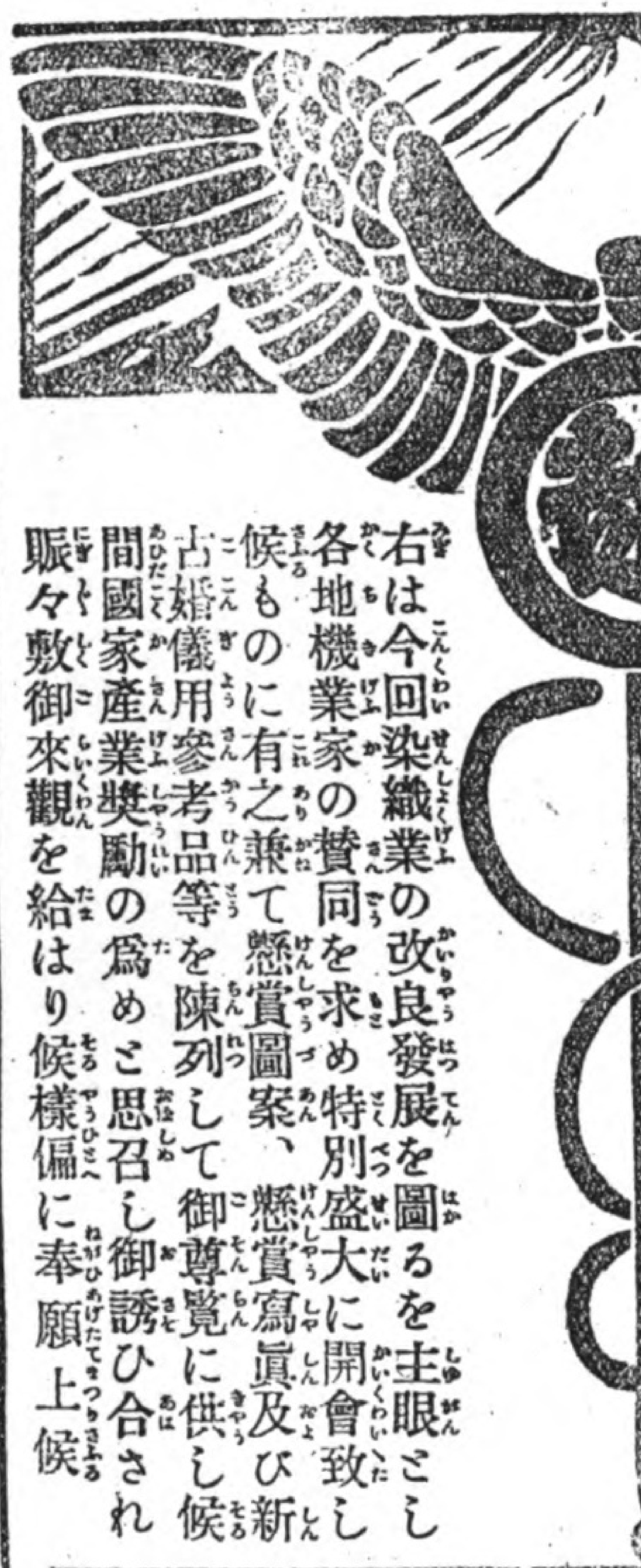
プレスト洗粉

本品の特色は最も皮膚に有効なる原料を以て精製したる者なれば色を白くし肌を滑かならしむ

定價(袋入 貳錢 同 五錢 大袋 拾錢
鑵入 七錢 同拾五錢 特別壹圓也)

本舖東京牛込西五軒町
山本玉川堂





來る四月一日より
新築の假營業場に於て
第十五回新柄陳列會
外に 寄せ切見切り反物大賣出し

右は今回染織業の改良發展を圖るを主眼とし各地機業家の贊同を求め特別盛大に開會致し候ものに有之兼て懸賞圖案、懸賞寫眞及び新古婚儀用參考品等を陳列して御尊覽に供し候間國家產業奬勵の爲め乙思召し御誘ひ合され賑々敷御來觀を給はり候樣偏に奉願上候

三越呉服店

キハク印　最上醬油
香
於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印
醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 信號(キハク)又(ヘク)
東京支店 日本橋區小網町三丁目 電話浪花五七七四 中野長兵衛

◉色を白くしにきびしらず
獨逸國ドレスデン市 ロール メヂシンス會社製品
皮膚特効美白新劑
チプリ化粧水

縮圖

○本品は西暦千九百六年の發明にして常用せば肌を軟滑にし自然白色艶麗の美顔たらしむる事は第一の特色なり
○本品は皮膚に特効ある藥品を配劑しあるに依り「ニキビ」「ソバカス」「ハタケ」其他「顏のアレ」等に最も奇効あり
○本品の効能顯著なる事は試驗成績の結果に於て之を確むるを得遂に政府印紙を貼用するに至れり本邦に於て化粧水に印紙を貼用するは本品を以て嚆矢とす
○東京市內は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢(六瓩迄)相添へ本舖へ御注文あれば直送す

正價小瓶三十グラム入 金二十五錢
東京日本橋區本石町
日本一手販賣 松澤常吉

明治四十一年三月廿日發行(每月五日廿日二回)(定價金三錢一ヶ月六錢郵稅不要)(廣告料一行金六拾錢)
編輯兼發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 永持德一
發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所
發賣所 同 京橋區南鍋町 株式會社隆文館
印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

附錄

愛國婦人會記事

▽參事會　本月三日午後二時より本部樓上に於て、參事會を開き、東郷、濱尾、松平須磨子、關、高木、山脇の諸氏出席第七回總會準備其他の件に就て議したり。

▽評議員會　本月二十五日第四水曜日に開催の豫定なり

▽見舞　本月八日新潟市大火に付、十日同支部長へ宛、岩倉會長より見舞狀を發送せり。

▽遊說員歸京　京都支部下遊說の爲出張中なりし富樫遊說員は、管內の巡回を了り本月十一日午前九時歸京せり

▽見送　本月十二日午前八時新橋驛發列車にて、由良要塞へ轉住の評議員內山中將夫人訓子氏を見送りし職員は、黑木、山地、宇佐川、松平（須磨子）、阪井、千家、新山、高木、柳谷、佐方等の本部評議員等、

總會彙報

▽第七回總會　本月三日午後二時より本部樓上に於て、總會準備に關し參事會を開きたり。

▽各支部總會日取　左の如し。

四月二日	群馬支部	總裁宮殿下御臨席
四月十九日	京都支部	〇
五月二日	長野支部	總裁宮殿下御臨席
五月十九日	福島支部	總裁宮殿下御臨席
五月下旬	山口支部	未定

▽京都支部總會　前項の如く四月十九日市內岡崎町平安神社境內に於て、擧行の筈なるが、同日特に癈兵遺族並に佩有功章者、特別會員に限り、御所及離宮の拜觀を許可せらるゝ筈なりと。

▽東京支部　西多摩郡幹事部に於ては、總會開催準備の爲、各町村長を招集して本會の實況及會務擴張上に關する講話を爲す由にて、本部遊說員野中彌知子氏出席の筈なり。

▽北海道支部　前年迄は本會總會開催の時日と發表期の切迫せるを以て、管下全會員へ周知せしむるの途なかりしが、本年は大に餘日あるを以て、參列者心得書數千枚を印刷して、管下各町村受持幹事其他へ支部長の依賴狀を添て全會員に通知せり。

支部記事

▽東京支部　去る三月十五日より仝廿四日まで十日間、軍人遺族及癈兵救護金の充實を圖る爲め新富座に於て慈善演藝會開催す。登場俳優は伊井一座にして、演劇番組は、一番目、新朝顏日記八場、中幕心中天網島（河庄內場）一幕、大切愛國心千人針三場、入場券料は、壹等金壹圓五拾錢、貳等金壹圓貳拾錢、參等金七拾錢。

△沖繩支部　本年一月五日午前十時より南陽館に於て、新年互禮會を開催したり來賓は、奈良原顧問、日比主事、藤田、和田、岸本、齊藤、朝武士の各相談役、鈴木警備隊區司令官等にして、來會者は、日比、和田、藤田の支部副長始め總て二百六十一名相會し、總裁宮殿下の御眞影を拜賀式を擧行し一同拜賀終るや日比主事の開會の挨拶、奈良原顧問の訓話、鈴木司令官の實戰談等有益なる演說ありて式を了へ茶菓並折詰を饗し餘興には福引及び淨瑠璃女手躍等ありて各自歡を盡し頗る盛會を極め、午後四時散會したり。

尙ほ同支部にては戰役後、每年春秋二回戰病死者遺族及癈兵の慰を爲し來りしが本年も去月十九日廿日の兩日は那覇區に於ける遺族癈兵を同廿五日は首里區に於ける遺族癈兵支部役員と當該幹事助役員にて各遺族癈兵の居宅に就て實地慰問するとゝなし、其他郡部に於ける遺族癈兵に對しては支部經濟上の都合に依り支部員は參加せず、當該幹事部の役員會員をして便宜慰問せしむる筈なり、尤も右慰問に付ては遺族には仙香及び支那茶を癈兵には手拭及支那茶を贈與すること前年の通りにして猶ほ慰問すべき、各幹事部に於ける遺族癈兵數は左の如し。

那覇區遺族二十三名、首里區遺族九名癈兵一名、島尻郡遺族四十八名癈兵七名、中頭郡遺族五十二名癈兵三名、國頭郡遺族四十名癈兵七名、宮古郡遺族十八名癈兵六名。八重山郡遺族七名、合計二百廿一名。

▽宮城支部　本部遊說員野中彌智子、富樫眞喜子兩氏當支部へ出張、各郡に於て講話會を開く、其日割左表の如し

講話會　辨士　野中女史

郡市名	月日	會場	宿泊所
川田郡	三月十五日	齋川村	白石町
	仝十六日	白石町	仝
	仝十七日	宮村	仙臺
伊具郡	三月十八日	角田町	角田町
	仝十九日	金山町	金山町
	仝廿日	丸森町	角田町
亘理郡	三月廿一日	逢隈村	亘理町
	仝廿二日	山下村	仙臺
宮城郡	三月廿三日	鹽釜町	鹽釜町
	仝廿四日	高砂村	仙臺
	仝廿五日	七郷村	仙臺
	三月廿六日	休	仙臺
遠田郡	三月廿七日	小牛田町	田尻町
	仝廿八日	田尻町	仝
	仝廿九日	涌谷町	涌谷町
栗原郡	三月三十日	高清水町	高清水町
	仝三十一日	築館町	築館町
	四月一日	志波姫村	仝
	仝二日	岩ヶ崎町	岩ヶ崎町
	仝三日	金成村	金成村
	仝四日	若柳町	若柳町
登米郡	四月五日	石越村	石越村
	仝六日	佐沼町	佐沼町
	仝七日	米谷町	米谷町
桃生郡	四月八日	中津山村	中津山村
	仝九日	飯野川町	飯野川町
	仝十日	[illegible]來村	石卷町
	四月十一日	休	仙臺
柴田郡	四月十二日	大河原町	仙臺
	四月十三日	仙臺發道中	

以下次號

▽岩手支部　岩手支部主事の更迭は去る二月十四日に行はれたり、其新舊主事の送迎を兼たる茶話會は、本月九日午前二時を以て縣廳會內に開かれたり。參會者は主催者たる支部長笠井夫人を始め、評議員幹事幹事補等四十餘名、笠井顧問帆足、高原、田中の三相談役と共に山田、木原の新舊主事來會し一同席定まるや支部長笠井夫人は會員を代表し山田舊主事に對して多年の勤勞を謝し多大の功績を賞し、又木原新主事に對しては勵勉會務に從ひ盡瘁措置以て會長の高志に副んことを要求せられ、新舊主事交々起つて答辭を述べば、直ちに茶菓の饗應始まりぬ。超て笠井顧問は愛國婦人會岩手支部總會開催の延期止むなき由を懇篤據陳せられたり、即ち本部の意向、同縣縣、實狀、宮城、福島支部の情勢及當支部との關係、當支部現下の經濟の狀態を說き協力以て總會開催の不利不便なるを示し、寧ろ本年之を延期し來年赤十字社岩手支部の新築成へ落成式と仝時に催す仝部の總會と相俟て婦人會の總會を擧行するときは經濟裕かに圓滿の好果を得べきよしを細々示諭せられたれば、滿堂異議なく同意を表し、夫れより談話は相互の間に起り、議論の種に趣味ある諧謔の話論ありて催笑沸くが如く、和氣藹然春風、堂に滿ち未だ氷雪解けざるに百花爛慢たるの感をなし、散會なしたるは午後五點鐘なりき。因に當支部が本年總會を開かざることに決したる旨を、部內各幹事部に通牒し而して總會の開催を條件として寄贈なを申込たる者の金圓は當年之が集額をなさゞるも、本人若し希望せば本年皆納を受け、貯蓄して來年度開催の總會の經費に充慎する筈なりと。

▽青森支部　上北郡幹事部にては去月十二日より廿七日まで戶町外八ヶ町村に於て、歷史幻燈會を開き、各町村長を始め幹事實事委員及其他の有志者、出席斡旋の勞を取り、幻燈會翌日は風雨雖路を冒して入會の勸誘に盡力し頗る好成績を擧げ約二百名の入會者ありたりとぞ。

愛國婦人會會員女子人口比較表　明治四十一年二月末日現在

支部名	特別會員 終身	特別會員 年賦	特別會員 計	通常會員 終身	通常會員 年賦	通常會員 計	合計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員割合	贊助員
石川	四七二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山口	一四九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山形	一六八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
廣島	五九〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
愛知	四七二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福岡	五〇〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岡山	二三二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
兵庫	五四一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
島根	一〇七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
神奈川	五八五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
愛媛	八九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
富山	一二五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北海道及函館	二九六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京都	四一四	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
熊本	二六九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
香川	二一二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
秋田	二二五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
青森	一五九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮崎	七五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
群馬	一一八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長崎	一、二六〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
佐賀	一二八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大分	一二三	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福井	八六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城	一九五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
栃木	一五二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三重	一一〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長野	一六五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪	五七八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
奈良	五六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岩手	七二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
德島	七八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東京	一、五二八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高知	五七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福島	二五六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
靜岡	一五七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
滋賀	一一五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
千葉	一七七	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山梨	五九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
埼玉	八五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新潟	二六九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
茨城	六五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
和歌山	五六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鹿兒島	二三五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岐阜	九八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鳥取	三四	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
臺灣	六八一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
沖繩	四五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
海外	—	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	二、七二一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

備考（一）支部の配列は會員比例數の最も多きものより順次配列す

（二）北海道及函館の兩支部會員數は合算して掲載せり而して函館支部會員數は特別五百十五人（終身六十人年賦四百五十五人）通常千八百十二人（終身七十六人年賦千七百三十六人）にして他は北海道支部會員數なり

（三）海外の分は報告未達に付終身會員並に年賦會員の區別を爲す事能はず嘗く從前の報告を以て填補せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛の權化

下

水落眞知子氏が面影の一斑は前號記載の如くなるが、女史は元來徒らに名聞を好むものにあらず、只一誠以て君國に盡さんと欲する而已、又他意なきを以て、從來も新聞記者等が女史を訪ふて、其經歷を廣く江湖に紹介せんと乞ひしかども、曾て諾がはざりしが、本年二月十四日癈兵池末長太郎氏を癈兵院に送らむとて、郷里より上京の途、汽車中に一人の篤志者あり、之を見て惻隱の情そゞろ禁ずる能はざるが如く即ち金壹圓を寄附し、女史が其名を問へども明さゞりしかば、せめてはとて女史は此美譚を汎く發表せんと欲するより、遂には自身の經歷をも話すべき餘儀なくせられ、茲に愛の權化として、將菩薩の化身として社會に讃歎せらるゝに至りしなり、これ天に口無く、人をして云はしむるものにあらずして何ぞや。女史は日露戰爭に先つこと兩三年愛國婦人會福岡支部幹事となり三潴郡に於て會旨の普及、會員の募集に盡力せられ、戰爭中は殊に東奔西走只管に運動し、豫備病院の慰問、第六師團向小屋地方療養所其他への寄贈金額も尠からず、斯る間に綿繃帶製造、豫備病院の看護もなし、遠方へ出張の必要ある時は日常節儉によりて生じたる金額を以て之に充て、嘗て私費ならざりし事無しとぞされば沙河の會戰に際して癈兵となりたる、池末長太郎氏をば三年間看護したる費用も、醫藥、防寒具、支部への報告等莫大の金額を要したれど、凡て私費なりしことは勿論なり。されば此度癈兵院に入院せしむるに就ても、會より受取るべき旅費(未詳)はそのまゝ之に金十圓を添へて、癈兵院に寄附せりと云ふ。其時の歌に「やまひ草根さす限りは末葉まで露のまゝ事をかけんとぞおもふ」其他土地の學校等へも寄附せる事多く、嘗て傘五拾本を寄附するとて「降る雨にうつろひやすき歎へ草たゞぬらさじとおもふばかりぞ」と一首の歌さへ添へたる、心のやさしさ。素養の程も心憎き極みにてそ。女史此度上京するや義弟なる人の許に滯在す。不自由ならめと人の問へば、上等の宿屋に泊れば費用かさみて、思ふ樣なる寄附も出來ずと答ふ。自身は喰べずとも貧民に飽かしめたしとの精神、今の世には稀らしき篤志家にあらずや。女史今や四十有一歳花の盛りは過ぎたりと雖も、國家の爲に盡すべきは却つて今後にあり。前途亦多望なりと云ふべし。愛息一人あり郷里の中學五年級に在學し令弟は三菱郵船會社の機關長に奉職すと聞く。稀世の烈女庶幾くは國家の爲、將本會の爲、自ら愛して將來の偉業を期せられむことを。至囑。

□支部記事□

▽熊本支部　阿蘇郡宮尾村愛國婦人會にては去月中同地尋常小學校に於て總會を開き種々同會事業の發展上に關し協議する所ありしが今回同地に模範的桑園を設置することに決し從來より貯蓄せる金員を以て一反步の畑地を購入し會員一同自ら耕耘作業に從事して直に桑樹の植栽を爲すことになれり

▽德島支部　當支部に於ては從來毎月五日講話會を開き來りしも今後毎月第一金曜日を以て開催することに變更せられたるより本月は去る六日(金曜日)を以て赤十字社德島支部別室に於て山岡高等女學校長の講話ありき

▽愛媛支部　宇摩郡幹事部にては來る四月下旬を以て發會式を擧行する筈

▽群馬支部　左の諸氏は當支部委員及び幹事を囑託さる
邑樂郡大島村長山村榮四郎　幹事囑託
委員囑託　同郡赤羽村　永濱しも子、同村篠原かく子

▽長野支部　東筑郡會員現在數は特別會員百七十九名通常會員一千三百八十九名なり

△鳥取支部　鳥取支部の幹事事務員は去三月二日同支部に會合し會員の募集、事務擴張、癈兵救護に關し種々協議會を開きたり

▽廣島支部　當支部の調査に依るに三十九年末現在會員と四十年末現在會員を比較するに特別會員に於ては九百四十七名、通常會員に於ては二萬七百四十名を增加せり

▽大阪支部　目下授產工場に通勤せる婦人十三歲以上七十歲以下の者計二百五十餘名なるが近來希望者益々增加し來るを以て狹隘なる現在の工場にては日々增加の希望者を收容し難きを以て今回三萬圓餘の資金を投じ工場を改築する計畫にて既にその敷地二百五坪現在敷地及び地續空地を合せ拂下を府廳に請願したれば之が許可あり次第工事に着手の筈にて該工事落成の上は癈兵にも相應の產業を授くる由尙昨年中に同授產者が受取りし賃金は二萬八千圓餘なりしと

執務的幹事

熊本支部幹事田代治子氏が此度 總裁宮殿下に

拜觀を賜はりたる事は、前號に不取敢報道し置きたるが、今記者が女史に接して聞得たる談話を揭ぐれば左の如し。(文責記者にあり)

私は、長年實施に製絲の方に從事致して居りましたが、少し理論の方を知り度いと存じまして、東京の西ケ原蠶業場へ學理研究に參りましたので御座います、唯蠶業場の寄宿には居りませんで園子坂の方に下宿を致して其處から通學いたして居りました。……何事でも左樣で御座いますが、矢張り斯道も技術の方計りで理論の方を腦裡へ入れて置きませぬと、工女を使ふにしても亦其他種々のとに、失敗が度々御座いますので、理論と實施と相俟つて行きませぬと、成効もなかなか難しいこと、存じます。……以前は親戚の者が致して居りましたのを、其者が種々の都合から廢すことになりましたのを私が引き受けましたので……平常から此の蠶業製絲といふものは、一國一郡の殖產に重大な經濟的關係を以つて居るものと思惟いたして居りましたので、其時は何の考も計畫もなく引き受けて、この珠磨郡下に(熊本縣珠磨郡)多少の富を致し度いものとの考から初めましたので失敗も度々御座いました。……唯、郡の方はまだ、到つて小さなもので御座いまして、以前は郡役所の補助なども御座いましたが、それも只今は無くなりまして今は珠磨郡に製絲場を建て爲つて居りますのは、私の所計りになつて居ります……なかなか未だ盛大になりませんので唯工女も今は餘り澤山居りませぬ、がゆくゆくは出來るだけ此事業を郡下に擴張いたし度いと種々計畫いたし居ります、故郷へ歸りましたら精々力を入れて見る積りで御座います、併し近來は餘程、郡下の方々も此方に注意を持つやうになりまして、漸次蠶業を初めますものが出來て參りました、まだ確固した製絲場が御座いませんので……この製絲で横濱へ直接輸出ますのと繭で賣りますのとは、餘程、利益から見ますると大變な差異が御座います、左樣で御座いますね丁度二倍程の差が御座います、百圓の繭はこれを製絲といたしますと二百圓になると云ふやうなもので、詰り珠磨郡で絲にして出しますと、二百圓だけの利金が、郡に落ちるやうなもので、繭で夫を他國へ賣るといふことは、忍びないので御座います。

△京都支部遊說記

京都支部内　富樫眞喜子

第三回報告

一月三十日　午後七時より市内大宮通花屋町上る淳風小學校に於て開催、支部よりは今井評議員、清水、守井三幹事山中實事官、中村、中川の各委員宮谷、室谷兩事務員出席、又同校長中川玉氏も出席、大に斡旋の勞を執らる、當夜は降雨甚しきも來會者は續々集合し、約百五十餘名に達せり、(主として男子)富委員開會の趣旨を述べ、次に講話九時半閉會せり、聽者は主として男子なるが故に會の趣旨も能く徹底したる如く感じたり、申込も若干ありたり。

一月三十一日　當日は休會

二月一日　午前九時二十八分奈良行の列車にて、六角評議員八田參與同行、相樂郡相樂村に至りたり、十時四十分木津驛着、武内事務員の出迎につきて、一先づ木津町川口旅館に赴きたり、今井、中西の兩幹事來訪晝餐を共にし、午後一時出發、一同は會場なる相樂村小學校に到りたり、後藤顧問も出席、藤川村長等の斡旋にて、參集者續々來校定刻に至り約七百を數ふ、開會を報ずるや、今井幹事開會の辭を述べらる、次に例の如く講話四時半閉會せり、聽者能く靜肅を保ち大に了解したる如く感じたり、閉會後六角、八田の兩職員は直ちに停車場に車を走らせ歸京されたり、自分は郡長と共に川口旅館へ赴き、暫時本會の將來につき談合し當夜は此處に宿泊せり中西幹事來訪されたり。

二月二日　午前十時四十分木津驛發の列車にて中西、今井兩幹事後藤顧問武内久保兩事務員同行同郡祝園村に至る、京都よりは八田主事來會、一行は加茂驛にて下車、夫より十餘町進みて同村に着、一旅亭にて晝飯を喫す、中西郡視學土坂學校長村長來場せらる、午後三時より同村立小學校に於て開會聽衆約百餘名今井幹事開會の辭を述べ、續て講話、五時半閉會直に腕車を驅り、加茂驛に至り、一行は乘車、木津にて各職員に別を告げ、自分は同驛にて京都行列車に乘換へ、八時歸京したり。

二月三日　休會

二月四日　休會

二月五日　京都支部に於て、奧村刀自の一週年法要を營む。(詳細は第百四十七號所載の如し。)

二月六日　午後一時三十八分二條驛發の列車にて、大森支部長六角今井兩評議員室谷事務員同行葛野郡嵯峨に赴きたり、列車の着するや、有吉前郡長夫人山田幹事等出迎はれ、一行は會場なる天龍寺に着す、渡邊顧問同幹事部長を初め石原幹事有吉前郡長等待受けらるゝ當日は寒氣殊に甚しく降雪霏々たるも、斡旋宜しきを得たる爲め、來會者約五百餘名にして、折柄郡會開催中とて同職員諸氏も列席せられ、大に好都合にてありき、二時半より開會、渡邊顧問趣旨を述べ、次に支部長の挨拶あり、次に講話に移り、閉會せしは五時過ぐる頃なりき、夫より郡長の厚意にて、三軒家なる旅亭に至り、一同晩餐の饗を受け、七時三十分同驛發の列車にて歸京せり、幹事部職員は停車場迄見送られたり

二月七日　午前七時十七分京都驛發の列車にて、神戸支部へと出發したり、九時半三宮驛に着す、重見主事の案内につれ柴田旅館へ投す、暫時休憩後直に服部支部長の邸に赴きたり、午後一時過ぐる頃支部長並に佐藤幹事同行故刀自の追弔會なる奧平野村祥福寺に至りたり

(詳細は第百四十七號所載の如し)

二月八日　午前中は來客不絶午後二時より神港倶樂部に於て、講話會開催、支部長初め各役員十數名出席、一般來會者千有餘名(内高等女學校他私立女學校二校を含む)さすがの廣場立錐の餘地なし、服部支部長開會の辭を述べられ次に講話せり、斯くも大多數の集合なるも、能く靜肅にして、會の趣旨の徹底せしは深く喜ぶ所なり、四時十分閉會、直に腕車を驅り、支部長以下十數名の役員に送られ、三宮停車場を發し六時京都に着、直に車を飛ばし、市内大宮通綾小路下る郁文小學校に赴きたり、當夜支部よりは宮守井高井の三幹事山中參事八田主事小森參與官最上の兩委員組委員加藤氏出席せられ、同校長今井文喜氏大に斡旋されたり來會者男女合せて三百餘名、最初蓄音機を使用したり、閉會を告ぐるや、校長紹介の勞を執り、次に自分講話九時半閉會せり。

二月九日　午前今井評議員同行愛宕郡鐘淵紡績會社に赴きたり、大森支部長六角評議員室谷事務員先着されたり、會役員岡部久子同郡幹事部長坐田氏北大路岩作兩幹事河村事務員來會されたり、同工場長瀨川定夫氏職員萩原氏等斡旋され開會前に工場内を一覽し、二時半より講話に移る、來會者は工女多數を占め約三百餘名なり、坐田幹事部長開會の辭を述べ、夫より支部長の挨拶あり、次に例の如く講話四時半閉會せり、夫より又もや瀨川氏の案内にて工手寄宿舍等の設備を一覽し六時過ぐる頃歸京せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

懸賞「梅か櫻か」

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

明治四十一年三月廿日（每月二回五日廿日）發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

〔注意〕この懸賞に關する詳しいとは、本誌第一面に載つて居りますが、つまり此處に掲げた小供の寫眞1より10までの何れが男で、孰れが女かを當てれば宜しいのです。解答用紙は普通の葉書でよろしいのです。さあ〳〵當てて下さい。

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所　印刷所　東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN